

シ ラ バ ス

——平成 21 年度(2009)——

人 間 科 学 編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間を過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成21年4月

九州工業大学工学部

教 員 編 成 表

(工学部担当教員)

学 長 下 村 輝 夫 ・ 工学部長 西 垣 敏

(H 21.4.1 現在)

氏 名	職 名
人 間 科 学 科 目	
井 上 寛	教 授
田 吹 昌 俊	教 授
鳥 井 正 史	教 授
橋 本 年 一	教 授
藤 澤 正 明	教 授
本 田 逸 夫	教 授
村 田 忠 男	教 授
ラックストン イアン, c	教 授
アブドゥハン恭子	准教授
李 友 炯	准教授
今 井 敦	准教授
岡 野 裕 司	准教授
中 村 雅 之	准教授
虹 林 慶	准教授
水 井 万里子	准教授
大 野 瀬津子	講 師
八 丁 由 比	講 師
東 野 充 成	講 師

目 次

附属図書館における教育支援業務の概要

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
哲学Ⅱ	3
哲学Ⅱ	3
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅱ	5
倫理学Ⅱ	5
歴史学Ⅰ	6
歴史学Ⅰ	7
歴史学Ⅱ	8
歴史学Ⅱ	9
文学Ⅰ	10
文学Ⅰ	10
文学Ⅱ	11
文学Ⅱ	11
心理学Ⅰ	12
心理学Ⅱ	12
教育心理学	13
教育学Ⅰ	13
教育学Ⅰ	14
教育学Ⅱ	14
教育学Ⅱ	15
教育原理	15
教育社会学	16
法学	17
日本国憲法	17
社会学Ⅰ	18
社会学Ⅰ	18
社会学Ⅱ	19
社会学Ⅱ	19
経済学Ⅰ	20
経済学Ⅰ	20
経済学Ⅱ	21
経済学Ⅱ	21
政治学Ⅰ	22
政治学Ⅰ	22
政治学Ⅱ	23
政治学Ⅱ	23
地域研究Ⅰ	24
地域研究Ⅰ	24
地域研究Ⅱ	25
地域研究Ⅱ	26
哲学と現代Ⅰ	27

哲学と現代Ⅱ	28
西洋社会史Ⅰ・Ⅱ	28
日本政治論Ⅰ	29
日本政治論Ⅱ	30
社会システム論Ⅰ	30
社会システム論Ⅱ	31
都市経済学	31
産業と規制の経済学	32
教育システム論	32
科学日本語	33
選択日本事情A	33
選択日本事情B	34

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての全般的説明	35
総合英語AⅠ	36
総合英語BⅠ	36
総合英語BⅠ	37
総合英語BⅠ	37
総合英語BⅠ	38
総合英語BⅠ	38
総合英語CⅠ	39
総合英語CⅠ	39
総合英語CⅠ	40
総合英語CⅠ	40
総合英語CⅠ	41
総合英語CⅠ	41
総合英語CⅠ	41
総合英語CⅠ	42
総合英語CⅠ	42
総合英語CⅠ	43
総合英語CⅠ	43
総合英語CⅠ	44
総合英語CⅠ	44
中級英語Ⅰ	45
中級英語Ⅰ	45
中級英語Ⅰ	46
中級英語Ⅰ	46
上級英語AⅠ	47
上級英語AⅠ	47
上級英語BⅠ	48
上級英語BⅠ	48
上級英語CⅠ	49
技術英語Ⅰ	49
総合英語AⅡ	50
総合英語BⅡ	50
総合英語BⅡ	51
総合英語BⅡ	51
総合英語BⅡ	52
総合英語BⅡ	52

総合英語CⅡ	53	基礎ドイツ語B	83
総合英語CⅡ	53	基礎ドイツ語B	84
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	84
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	85
総合英語CⅡ	55	基礎ドイツ語B	85
総合英語CⅡ	55	基礎ドイツ語B	86
総合英語CⅡ	56	選択ドイツ語A	86
総合英語CⅡ	56	選択ドイツ語A	87
総合英語CⅡ	57	選択ドイツ語A	87
総合英語CⅡ	57	選択ドイツ語A	88
総合英語CⅡ	58	選択ドイツ語A	88
総合英語CⅡ	58	(3) 中国語	
中級英語Ⅱ	59	基礎中国語AⅠ	89
中級英語Ⅱ	59	基礎中国語AⅠ	89
中級英語Ⅱ	60	基礎中国語AⅠ	90
中級英語Ⅱ	60	基礎中国語AⅡ	90
上級英語AⅡ	61	基礎中国語AⅡ	91
上級英語AⅡ	61	基礎中国語AⅡ	91
上級英語BⅡ	62	基礎中国語B	92
上級英語BⅡ	62	基礎中国語B	92
上級英語CⅡ	63	基礎中国語B	93
技術英語Ⅱ	63	選択中国語A	93
(2) ドイツ語		選択中国語BⅠ	94
ドイツ語授業科目について	64	選択中国語BⅡ	94
基礎ドイツ語AⅠ	65	選択中国語BⅡ	95
基礎ドイツ語AⅠ	66	(4) ロシア語	
基礎ドイツ語AⅠ	66	ロシア語AⅠ	96
基礎ドイツ語AⅠ	67	ロシア語AⅡ	96
基礎ドイツ語AⅠ	67	(5) 韓国(朝鮮)語	
基礎ドイツ語AⅠ	68	選択韓国(朝鮮)語AⅠ	97
基礎ドイツ語AⅠ	68	選択韓国(朝鮮)語AⅡ	97
基礎ドイツ語AⅠ	69		
基礎ドイツ語AⅠ	69	3. 保健体育系科目	
基礎ドイツ語AⅠ	70	保健体育系科目について	98
基礎ドイツ語AⅠ	70	保健体育A	98
基礎ドイツ語AⅠ	71	保健体育B	99
基礎ドイツ語AⅡ	71	健康スポーツ科学論	99
基礎ドイツ語AⅡ	72	応用スポーツコース(Ⅰ)	100
基礎ドイツ語AⅡ	72	応用スポーツコース(Ⅰ)	100
基礎ドイツ語AⅡ	73	応用スポーツコース(Ⅱ)	101
基礎ドイツ語AⅡ	73	応用スポーツコース(Ⅱ)	101
基礎ドイツ語AⅡ	74		
基礎ドイツ語AⅡ	74	4. リレー講義科目	
基礎ドイツ語AⅡ	75	環境適応論	102
基礎ドイツ語AⅡ	75	リレーセミナー「環境を考える」	102
基礎ドイツ語AⅡ	76		
基礎ドイツ語AⅡ	76	II. 教職に関する専門教育科目	
基礎ドイツ語AⅡ	77	教職論	103
基礎ドイツ語B	77	教育原理	103
基礎ドイツ語B	78	教育心理学	104
基礎ドイツ語B	78	教育社会学	105
基礎ドイツ語B	79	教育課程論	105
基礎ドイツ語B	79	特別活動の指導法	106
基礎ドイツ語B	80	教育方法	106
基礎ドイツ語B	80	生徒指導	107
基礎ドイツ語B	81	教育相談	107
基礎ドイツ語B	81	総合演習	108
基礎ドイツ語B	82		
基礎ドイツ語B	82	III. 人間科学科目(留学生)	
基礎ドイツ語B	83	人間科学科目(留学生)について	109

日本語 A I	109
日本語 A I	110
日本語 A II	110
日本語 A II	111
日本語 B I	111
日本語 B II	112
日本語 C I	112
日本語 C II	113
日本事情 A	113
日本事情 B	114
日本事情 C	114
日本事情 D	115

附属図書館における教育支援業務の概要

1. 概要

学習や研究活動をより効果的に進めるために、附属図書館で行っている教育支援業務について簡単に説明します。ほとんどの情報はウェブのページに記載されていますので、詳細は次のページを確認してください。

→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/>

2. 利用案内 → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/guide/kaikanjikan/kaikanjikan.htm> ほか

開館時間と休館日、館内の案内図、貸出・返却・更新・予約の方法、図書や雑誌の探し方、文献複写・相互貸借の依頼の仕方について紹介します。

3. 資料案内 → http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/vod_tobata/index.htm ほか

ビデオオンデマンド教材、新着図書や新着ベストセラー図書、学術雑誌コーナーやブランディングコーナーに配架している雑誌の一覧、購入雑誌の一覧、本学の博士学位論文の論題と目次（要旨）の一覧を紹介します。

4. その他の図書館サービス

- マイライブラリ → <http://opac.libt.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do>

以下のリクエストサービスを提供：

Web からの文献複写依頼、他大学への図書借用依頼、新着情報、貸出状況照会、貸出期間の延長、図書資料の予約・予約の取消し、依頼状況照会、マイフォルダの利用

- 本館分館間資料取寄せ
- グループ創造学習コーナー：グループによる討議を重ね、個々の発想をイノベーションの成果にまで高めるプロセスを学習することによって、真に創造的な能力を養うことができるようにするための設備(電子黒板、プロジェクト、ノートPC等)をもったスペース
- キャンパス・アグリーメント・ライセンス：マイクロソフトオフィス、トレンドマイクロウィルスバスターのインストールサービス（1年～3年生）
- eラーニング → <http://www.e-learningcenter.kyutech.jp/index.html>
- PC及び無線LAN

5. 図書館の蔵書データベースの検索

図書館の蔵書は図書、雑誌、視聴覚資料等で構成されており、目録はすべてデータベース化されているためオンライン (OPAC：Online Public Access Catalog) で検索し学内の所蔵を調べることができます。

→ 日本語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=jp>

英語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=en>

携帯電話からも検索可 → <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/limedio/i/>

学内に所蔵がない場合 → <http://webcat.nii.ac.jp/> NACSIS Webcat：全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース

※なお、『シラバス』の7.「教科書・参考書」に掲載の書名の後ろに記載されている数字や記号は図書館での配架場所を示す請求記号です。

6. 文献データベースの検索（一部を除き VPN 接続で学外からも検索可能）

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データをさがすことができます。

☆国内文献をさがす：主に1年生～3年生からのレベル

- CiNii：学協会発行の学術雑誌と大学等の研究紀要を対象とした論文の引用文献情報データベース。一部本文の参照も可。 → <http://ci.nii.ac.jp/cinii/servlet/CiNiiTop>
- JDream II：国内や海外の科学技術、医学に関する、学術論文や解説的記事などの抄録付きの文献情報データベース → <http://ninsho.jst.go.jp/loginIP.html>
- 雑誌記事索引検索(国立国会図書館)：国内刊行和文雑誌を対象とした記事データベース
→ <http://opac.ndl.go.jp/index.html>
- 日経BP記事検索サービス：日経BP社が発行する雑誌(約40誌)のバックナンバー記事を、オンライン上で検索・閲覧できるサービス → <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
- ヨミダス文書館：読売新聞と“THE DAILY YOMIURI”（英字新聞）とが収録された新聞記事データベースと、「よみうり人物データベース」を提供
→ <https://db.yomiuri.co.jp/bunshokan/>（VPN接続不可）
- 理科年表プレミアム：1925年（大正14年）以降最新版までの理科年表の内容を収録
→ <http://www.rikanenpyo.jp/member/>

☆外国文献をさがす：主に卒研究生、院生、教員からのレベル

- JDream II：海外の学術論文の抄録の翻訳を含む。
- Web of Science(Science Citation Index Expanded)：世界的な自然科学系のメジャー雑誌、約6,500誌に掲載された論文の引用関係を効率的に辿ることのできるデータベース。
本学が契約している電子ジャーナルの原著論文へのリンク機能を持つ。
→ <http://isiknowledge.com/WOS>
- INSPEC：物理学、電気工学、エレクトロニクス、コンピュータ分野にわたる世界的な科学技術文献を網羅した優れたリソース、約700万件の書誌事項を収録
→ <http://isiknowledge.com/INSPEC>
- Journal Citation Report on the Web (Science edition)：約200の専門分野にわたる7,000誌以上の、最も引用され、かつ国際的評価の高い学術雑誌を収録し、Impact factorなどの雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供
→ <http://isiknowledge.com/jcr>
- MathSciNet（飯塚キャンパスのみ）：AMS（American Mathematical Society:米国数学会）提供による、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベース
→ <http://www.ams.org/mathscinet/>

7. 電子ジャーナルの検索・閲覧（VPN接続で学外からも閲覧可能）

文献データベースで検索した原著論文のフルテキストをオンラインで閲覧することができます。

ScienceDirect、SpringerLink、Wiley-InterScience等はサブジェクト毎のコレクションを有するとともに検索機能をもったデータベースでもあります。学術雑誌約4000タイトルが閲覧可能です。

☆主な電子ジャーナル

- ScienceDirect（Elsevier社）：1660タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.sciencedirect.com/>
- SpringerLink（Springer社）：1280タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.springerlink.com/>
- Wiley-InterScience（Wiley社）：480タイトル、自然科学・工学・医学分野他

→ <http://www3.interscience.wiley.com/>

- CSDL (IEEE Computer Society Digital Library) : 26タイトル、コンピュータサイエンス
→ <http://www2.computer.org/portal/web/csdl>
- APS (American Physical Society) : 7タイトル、物理学 → <http://prola.aps.org/>
- American Chemical Society Web Editions : 34タイトル、化学・応用化学
→ <http://pubs.acs.org/>
- Nature : 6タイトル、Nature本誌と生命科学・材料科学分野 5タイトル
→ <http://www.nature.com/nature/index.html>

8. 図書館発信データベースの検索

- 九州工業大学学術機関リポジトリ “Kyutacar (キューテイカー)” : 学内で生産された教育・研究成果情報を
電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベース
→ <http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 筑豊歴史写真ギャラリー (情報工学部分館) : 昭和30年代前半まで日本の産業・経済を支え、わが国有数の石
炭生産地であった筑豊の往時の姿を伝える写真データベース
→ <http://search2.libi.kyutech.ac.jp/>
- 博士学位論文 : 九州工業大学で授与された課程博士論文、論文博士論文の論題と目次 (要旨) の一覧
→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/thesis/thesis.htm>

9. ビデオオンデマンド教材の閲覧 (VPN 接続で学外からも閲覧可能)

丸善 BBC 等の主に英語教育を目的としたビデオプログラムを VOD 配信するサービス

☆戸畑キャンパス → http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/vod_tobata/index.htm

- 科学と人間 : クローン時代と生命倫理 = DAWN OF THE CLONE AGE (英語、日本語字幕版) 他11点
全44巻 (若松キャンパスからも閲覧可)

☆飯塚キャンパス → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libi/info/vod.htm>

- 冒険の科学 = Rough Science (英語版) テキスト有 16巻 他5点 全17巻

I. 人間基礎科学科目

（１）人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

目標

- 1) 選択必修科目では、人文・社会諸分野の多様な科目を履修し、幅広い視野から社会や文化との関わりの中に科学・技術を位置づける。
- 2) 上級科目では、少人数で双方向的な密度の濃い授業形態をとり、人文・社会諸分野のより高度な問題設定に取り組み、さらに視野を拡大する。
- 3) 自ら問題を発見し、それに答えていくという積極的学習態度の基盤を形成する。
- 4) 専門諸学の基礎となる論理的思考力と言語運用能力を養う。

2. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

3. 履修上の注意

- ・人文社会系選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ（月曜1限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

相対主義と普遍主義

古くから存在する相対主義と普遍主義の対立を、さまざまな分野について検討、考察し、現代では無意識のうちにとられがちな相対主義的思考の問題点を浮き彫りにする。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

相対主義、普遍主義、疑似科学

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 相対主義とは何か
- 第2回 さまざまな相対主義
- 第3回 パラダイム相対主義
- 第4回 共約不可能性
- 第5回 科学と合理性
- 第6回 サイエンス・ウォーズ
- 第7回 疑似科学
- 第8回 文化相対主義
- 第9回 翻訳と文化
- 第10回 言語相対主義
- 第11回 サピア・ウォーフ仮説
- 第12回 道徳的相対主義
- 第13回 さまざまな道徳説
- 第14回 道徳の普遍
- 第15回 まとめ

5. 評価方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

バーンスタイン,R.J.,『科学・解釈学・実践:客観主義と相対主義を超えて』1,2（岩波書店,1990）

本館 閲覧室3階 研究用図書 401ⅡB-11Ⅱ1

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日:15:00～16:00

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ（月曜2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

トランスヒューマニズム:人間改造の哲学

コンピュータ技術や医療技術の急速な発展によって、従来の「人間の条件」をも改変するような変革がもたらされるとの予測が一部でなされている。こうした技術発展が近い将来にもたらす可能性のある、人間観、倫理観の根本的変革が何をもたらすかを検討する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

ポスト・ヒューマン 人間の条件 エンハンスメント ヒトゲノム

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 トランス・ヒューマニズムとは何か
- 第2回 新しい人間?
- 第3回 人間の条件
- 第4回 クローン人間
- 第5回 再生医療
- 第6回 新しい優生学
- 第7回 デザイナー・ベビー
- 第8回 エンハンスメント
- 第9回 ポスト・ヒューマン
- 第10回 ヒトゲノム計画
- 第11回 人間を超えるAI
- 第12回 脳のモデル化
- 第13回 ニーチェの「超人」
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

レイ・カーツワイル,『ポスト・ヒューマン誕生:コンピュータが人類の知性を超えるとき』（日本放送出版協会,2007）

本館 閲覧室3階 学生用図書 549.9ⅡK-583

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日:15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy Ⅰ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

地球温暖化論争

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。環境問題を素材に、事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

●授業の目的

地球温暖化問題については、従来から根強くあった温暖化否定論が近年活発に論じられるようになった。各種温暖化否定論者の主張を検討し、不確実な問題についての合理的判断力を養う。

2. キーワード

地球温暖化、救命艇倫理、環境リスク、世代間倫理

3. 到達目標

環境問題はメディアなどを通じて、連日、多種多様な情報が流されているが、専門家によるものも含めて、そうした情報を鵜呑みにせず、丹念に検討する通じて、与えられた情報を吟味し自ら考える能力の獲得を、また自らの考えを他人に伝わる仕方で表現する能力の獲得を目指す。

4. 授業計画

第1～2回 地球温暖化論

第3～5回 地球温暖化否定論

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 リサイクルの功罪

第9～11回 環境リスク論

第12回 レポート検討Ⅱ

第13回 世代間倫理

第14回 ディープ・エコロジー

第15回 救命艇倫理

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必要要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

武田邦彦著『偽善エコロジー：「環境生活」が地球を破壊する』（幻冬舎、2008）

本館 閲覧室3階 519ⅡT-3

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ（月曜1限）

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

脳・身体・ロボット

近年、人工知能研究やロボット工学の分野で、知能に関する新しいアプローチが提唱されている。それは、人間を環境内存在としてとらえ、脳・身体・環境を相互に作用し合う一体の存在者として、その知能を解明しようとするものである。じつは、このような考え方は身体の哲学にその先駆がある。本講義では、身体の哲学を背景にした新しい知能研究が、知能観、人間観にどのような変革をもたらすかを探る。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

脳、人工知能、身体性

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 インテリジェンス・ダイナミクス

第2回 知能とは何か

第3回 AIの歴史

第4回 記号・情報処理モデルの限界

第5回 ニューラル・ネットワーク

第6回 力学系

第7回 ポランニーの暗黙知

第8回 メルロ＝ポンティの身体の哲学

第9回 身体図式の獲得

第10回 環境内存在

第11回 身体性

第12回 発達の観点

第13回 共同注意

第14回 まとめ

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

土井利忠、藤田雅博、下村秀樹編『脳・身体性・ロボット：知能の創発をめざして』（シュプリンガー・フェアラーク東京、2005）

本館 閲覧室3階 549.9ⅡD-

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ (月曜2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

新しい優生学

優生学は、すでに克服された過去の学問だと思われがちであるが、生殖医療の発達とともに、「新しい優生学」の台頭が懸念されている。新しい優生学がもたらす功罪の両面を検討し、あるべき倫理の姿を探る。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

優生学、自己決定権、パーソン

3. 到達目標

典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量して、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 優生学とは何か
- 第2回 新しい優生学
- 第3回 デザイナー・ベビー
- 第4回 受精卵診断
- 第5回 遺伝子診断
- 第6回 パーソン論
- 第7回 幸福の追求権
- 第8回 自己決定権
- 第9回 自発的な優生学
- 第10回 優生学の歴史
- 第11回 日本の優生学
- 第12回 福祉国家と優生学
- 第13回 遺伝と環境
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約70%)および数回のノート提出(約30%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

米本昌平ほか『優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか』(講談社, 2000)

本館 閲覧室1階 文庫 081ⅡK-3Ⅱ1511

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日: 15:00 ~ 16:00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

生殖医療の倫理

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。先端医療を巡る倫理問題の考察を通じて、考える力、論理的表現の力を養う。

●授業の目的

体外受精を前提にした生殖補助医療をめぐる問題のうち、代理出産、非配偶者間体外受精および受精卵診断を事例として取り上げる。これら先端医療が、従来の人間観、家族間に与える影響の理解を目指す。

2. キーワード

自己決定権、幸福の追求権、パーソン

3. 到達目標

事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝える日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 代理母問題の歴史
- 第2～3回 日本の現状
- 第4回 諸外国の現状
- 第5回 非配偶者間体外受精
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 受精卵診断
- 第9～11回 「生命の選択」と新優生学
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 生命倫理学の問題

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

奈良信雄『遺伝子診断で何ができるか：出生前診断から犯罪捜査まで』(講談社, 1998)

本館 閲覧室1階 文庫 408ⅡB-2Ⅱ1222

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー等

月曜日: 15:00 ~ 16:00

倫理学Ⅰ EthicsⅠ（月曜1限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、受洗、モニカ

3. 到達目標

アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。本授業では、まず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を考察し、次いで、『告白録』第1巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第1巻から第8巻までの要旨を概観し、さらに、第9巻に基づいてアウグスティヌスが32歳の時に回心してから翌年受洗するまでの時期の生活と母モニカの死について考察する。

4. 授業計画

- 第1回 哲学と倫理学（1）
- 第2回 哲学と倫理学（2）
- 第3回 哲学とキリスト教（1）
- 第4回 哲学とキリスト教（2）
- 第5回 告白と讃美
- 第6回 神と被造物
- 第7回 人間の罪
- 第8回 神の三位一体と御言の受肉
- 第9回 キリストによる救い
- 第11回 『告白録』第1巻から第8巻までの要旨（1）
- 第11回 『告白録』第1巻から第8巻までの要旨（2）
- 第12回 第9巻—カシアクムでの生活
- 第13回 第9巻—受洗
- 第14回 第9巻—母モニカの死
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m - sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅰ EthicsⅠ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アリストテレス、政治学、国制、

3. 到達目標

アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第1部と第2部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考える。本授業では、アリストテレス著『政治学』第1巻から第3巻までの内容を概観した上で、第4巻に基づいて、現実の諸国制、大多数の国々にとっての最善の国制、国制の組織の問題を考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 『政治学』第1巻の要点
- 第4回 『政治学』第2巻の要点
- 第5回 『政治学』第3巻の要点
- 第6回 『政治学』第4巻について
- 第7回 現実の諸国制（1）
- 第8回 現実の諸国制（2）
- 第9回 現実の諸国制（3）
- 第10回 現実的な最善の国制（1）
- 第11回 現実的な最善の国制（2）
- 第12回 国制の三つの部分—（1）評議的部分
- 第13回 国制の三つの部分—（2）諸役の部分
- 第14回 国制の三つの部分—（3）裁判をする部分
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/
I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m - sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ（月曜1限）

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、記憶、至福の生、真理、肉の欲、目の欲、世間的野心

3. 到達目標

アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。本授業では、先ず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を概観し、次いで、『告白録』第1巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第10巻に基づいてアウグスティヌスの現在の自己についての告白を考察する。

4. 授業計画

- 第1巻 哲学と倫理学
- 第2回 哲学とキリスト教
- 第3回 告白と讃美
- 第4回 神と被造物
- 第5回 人間の罪
- 第6回 神の三位一体と御言の受肉
- 第7回 キリストによる救い
- 第8回 過去の自己についての告白の意味
- 第9回 現在の自己についての告白の意味
- 第10回 記憶（1）
- 第11回 記憶（2）
- 第12回 至福の生と真理
- 第13回 肉の欲、目の欲、世間的野心
- 第14回 仲保者キリスト
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m - sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。

（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アリストテレス、政治学、国制変革

3. 到達目標

アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第1部と第2部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考察する。本授業では、アリストテレス著『政治学』の第1巻から第4巻までの内容を概観した上で、第5巻に基づいて国制変革の問題について考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 『政治学』第1巻の要点
- 第4回 『政治学』第2巻の要点
- 第5回 『政治学』第3巻の要点
- 第6回 『政治学』第4巻の要点
- 第7回 『政治学』第5巻について
- 第8回 国制変革とその一般的原因（1）
- 第9回 国制変革とその一般的原因（2）
- 第10回 国制変革とその一般的原因（3）
- 第11回 国制変革の特殊原因とその回避手段（1）
- 第12回 国制変革の特殊原因とその回避手段（2）
- 第13回 国制変革の特殊原因とその回避手段（3）
- 第14回 国制変革の特殊原因とその回避手段（4）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081 / I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー等

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail : m - sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学 I

History I, the 1st and the 2nd period, Monday (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点を取り入れて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「茶」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解する。茶の流通・伝播を通じてグローバルな視野で中世から近世の世界の歴史を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげて自分の考えを示す。時間をかけたレポート作成とともに、テスト形式で時間内に一定量の歴史記述を行う。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例:スパイス
- ③理論・個別事例:茶
- ④大航海時代:1ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代:2中核国の推移
- ⑦大航海時代:3オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地:過去・現在
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト	20%
レポート	20%
期末テスト	60%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)』

11、14『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版1(インド東から西へ)』の視聴を勧める。

7. 参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。08111C-111596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon1kit@aol.com 1限

Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅰ History I, the 2nd period, Friday (金曜2限)

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。ヨーロッパ諸国やアメリカが世界の資源開発に着手した大航海時代から19世紀の植民地時代までを通観することで、資源開発に関わる人・国家・物・私企業の関係性の変遷が見えてくる。

●授業の目的

17世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の資源開発に焦点をあてる。資源とは何か、資源の所有権、資源開発のプロセス、資源の開発、生産、流通に関する人々の役割、資源開発にともなう諸問題（環境・グローバル化・貧富格差等）について事例を交えて学び歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「資源」や「開発」はヨーロッパやアメリカの経済の歴史を理解する上で、重要なキーワードである。しかし、現代の大規模鉱山は中東、アフリカやラテン・アメリカなど、西洋諸国とは異なるエリアに存在するものが多い。日本でもほんの数十年前まで石炭を中心とする大規模鉱山が各地に存在したが、今や産業遺跡としてのみ形をとどめているものも少なくない。授業ではまず、西洋や植民地における資源の種類（金属・化石燃料等）について個別に学ぶ。また鉱業技術の発達や鉱夫の労働・コミュニティのあり方を理解し、鉱山社会（ヤマ社会）について検討する。資源と開発という現代的な問題をその起源から洗いだしていく。

2. キーワード

「資源」「開発」「技術」「グローバル化」「西洋」「植民地」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②資源・開発という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な資源開発の歴史事例を学び、当時の人々の暮らしや価値観などを考慮して現代との違い・共通点を読み解く。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。証拠を示しながら論理的に自分の考えを表現する。時間をかけたレポート作成とともに、テスト形式で時間内に一定量の歴史記述を行う。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③資源と歴史
- ④植民地と開発
- ⑤個別事例 金属1 開発
- ⑥ 2 生産
- ⑦ 3 流通
- ⑧小テスト
- ⑨個別事例 石炭1 開発
- ⑩ 2 生産
- ⑪ 3 流通
- ⑫個別都市事例 ゴム1 開発
- ⑬ 2 生産
- ⑭ 3 流通
- ⑮期末試験

5. 成績評価・基準

- | | |
|-------|-----|
| レポート① | 20% |
| レポート② | 30% |

期末テスト 50%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版) 11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版4 (東南アジア豪華な気分で)』の視聴を勧める。

7. 参考文献

山口梅太郎『放送大学印刷教材 140(現代資源論: 鉱物資源とその開発)』1986年。375.9\\H-2\\140

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

歴史学Ⅱ

History AⅡ, the 1st and 2nd period, Monday (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代(近世・近代)に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心にみていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「文化史」「近世近代」「イギリス」「ロンドン」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②都市という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な都市の歴史事例を学び、当時の都市に生きた人々の日常を理解する。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。論理的に証拠をあげながら自分の考えを示す。時間内に一定量の歴史に関する文章を記述する。また、レポートの基本的な書き方を学ぶ。(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別事例 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 社会分極化
- ⑧ 小テスト
- ⑨ 4 都市文化
- ⑩ 5 新興都市
- ⑪ 6 都市化・工業化
- ⑫ 7 貧困と福祉
- ⑬ 8 植民地と都市
- ⑭ 9 都市と外国人
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説

明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト	20%	2問(各10点)
レポート	20%	
期末テスト	60%	3問(25点2問、30点1問)

6. 履修上の注意、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版) 7、8、11、14』(図書館HP参照)の視聴を勧める。

7. 参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3Ⅱ-1Ⅱb

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon2kit@aol.com

歴史学Ⅱ HistoryⅡ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちは、異なる出自や文化をもって同じ社会に人々が暮らしているという意識を持っているだろうか。特に現代都市には、異なる国籍、異なる宗教、異なる民族性、異なる文化、を持つ人々が住んでいて、共生が進むとともに、周縁に追いやられる人々が出てくるなど、様々な問題が生じてきている。ヨーロッパを中心に歴史上の都市の多文化共生の事例をとりあげること、近現代的な都市に共通する諸問題が見えてくる。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の都市、特に都市における多文化共生の問題に焦点をあてる。それらについての事例を個別に学んだ上で、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深め、現代日本の多文化共生をめぐる諸問題についても考える。

●授業の位置づけ

「外国人」や「マイノリティ」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらについてのヨーロッパにおける事例を詳しく紹介する。現代日本の我々が持つ多文化のイメージがいつ頃、どのように起こり、展開してきたのかを理解する。「多文化共生」をキーワードとする社会の問題を歴史的に、また多角的に捉えることができるようにする。

2. キーワード

「多文化」「ヨーロッパ」「周縁」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。歴史＝暗記というイメージを変える。時間軸とエリアの組み合わせで、過去から現在までの物事の変化の様子を検討する。(30%)
- ②多文化という現代社会のキーワードから過去を読み解く。様々な多文化共生の歴史事例を学び、それぞれ時代に生きた当時の人々の暮らしや価値観などを考察する。それらを検討し、共通点と相違点を明らかにする。(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得する。時間軸、エリア、5W1Hが入った簡潔で明確な文章を記述する。証拠を示しながら論理的に自分の考えを表現する。時間をかけたレポート作成とともに、テスト形式で時間内に一定量の歴史記述を行う。(30%)

4. 授業計画

①ガイダンス

②歴史学方法論

③ヨーロッパにおける多文化とは

④

⑤地域的周縁

1 民族

⑥

2 少数言語

⑦

3 ディアスポラ

⑧

小テスト

⑨社会の周縁

1 貧富の格差

⑩

2 周縁(宗教・民族)

⑪

3 周縁(福祉)

⑫グローバル化

1 植民地とヨーロッパ

⑬

2 南北格差

⑭

3 共生の21世紀

⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

レポート① 20%

レポート② 30%

期末テスト

50%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』(図書館HP参照)の視聴を勧める。

7. 参考文献

川北稔・指昭博編『周縁からのまなざし』山川出版社、2000年。
233ⅡK-6Ⅱa

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

文学Ⅰ LiteratureⅠ（月曜2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つか、描かれた「都市」に焦点を当ててアプローチする。

●授業の目的

文章を読むための技術について理解を促す。反覆表現が作家の意識・無意識の読者に向けたサインになっている点を手がかりにする。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変わらない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

読解 独創 社会

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 反覆表現読解の実例1（講義ガイダンス）
- 第2回 反覆表現読解の実例2
- 第3回 泉鏡花「夜行巡査」
- 第4回 樋口一葉「十三夜」
- 第5回 田山花袋「少女病」
- 第6回 国木田独步「窮死」
- 第7回 中間試験（作文）
- 第8回 谷崎潤一郎「秘密」
- 第9回 志賀直哉「小僧の神様」
- 第10回 芥川龍之介「舞踏会」
- 第11回 梶井基次郎「檸檬」横光利一「街の底」
- 第12回 中野重治「交番前」堀辰雄「水族館」
- 第13回 江戸川乱歩「目羅博士」織田作之助「木の都」
- 第14回 三島由紀夫「橋づくし」大江健三郎「人間の羊」
- 第15回 筆記試験（期末試験）

5. 評価方法・基準

出席点（10点） 中間試験（作文 800字）（10点）
 期末試験（作文 800字）（80点）
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視（3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない）。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・吉田司雄編『近代小説[都市]を読む』（双文社出版 2100円）913.6/T-187/2

●参考書

ガイダンス、および講義中にその都度指示する。

8. オフィスアワー等

文学Ⅰ LiteratureⅠ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 荻原 桂子

1. 概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

日本近代文学・夏目漱石

3. 到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読書力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。現代文学の紹介をとおして文学とはどのようなものかを考える。
- 第2回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第3回 泉鏡花『高野聖』
- 第4回 島崎藤村『破戒』
- 第5回 夏目漱石『こころ』
- 第6回 森鷗外『高瀬舟』
- 第7回 芥川龍之介『奉教人の死』
- 第8回 宮沢賢治『よだかの星』
- 第9回 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第10回 川端康成『雪国』
- 第11回 太宰治『人間失格』
- 第12回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第13回 遠藤周作『海と毒薬』
- 第14回 試験の説明。まとめ。
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（80%）および授業への出席状況（20%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るなので、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『文学を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー等

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

文学Ⅱ LiteratureⅡ (月曜2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

異界という概念を軸に人間の想像力の持つ意味をとらえる。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変わらない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。(関連する学習教育目標：X)

2. キーワード

異界 想像力 臨界点

3. 到達目標

通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

第1回 反覆表現読解の実例1 (講義ガイダンス) (印刷資料を用いて作品読解の方法にふれる。)

第2回 反覆表現読解の実例2

第3回 泉鏡花「龍潭譚」

第4回 永井荷風「狐」

第5回 佐藤春夫「西班牙犬の家」

第6回 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」

第7回 中間試験

第8回 芥川龍之介「奉教人の死」

第9回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」夢野久作「瓶詰の地獄」

第10回 梶井基次郎「Kの昇天」萩原朔太郎「猫町」

第11回 中島敦「狐憑」井伏鱒二「へんろう宿」

第12回 太宰治「魚服記」岡本かの子「川」

第13回 川端康成「水月」

第14回 井上靖「補陀落渡海記」

第15回 筆記試験 (期末試験)

5. 評価方法・基準

出席点 (10点) 中間試験 (作文 800字) (10点)

期末試験 (作文 800字) (80点)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 (3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない)。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・高橋広綱編『近代小説[異界]を読む』(双文社出版 2000円) 913.6/T

●参考書

1) トドロフ『幻想文学』(ちくま学芸文庫) 904/T-5

2) サルトル『想像力の問題』(人文書院) 958/S-1/12-b

8. オフィスアワー等

文学Ⅱ LiteratureⅡ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 荻原 桂子

1. 概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。

●授業の位置付け

毎回、漱石の作品を輪読し、文学作品の理解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

日本文学・夏目漱石

3. 到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読書力をつける。漱石文学を理解する。

4. 授業計画

第1回 授業の説明。文学とはどのようなものか。漱石とはどのような作家か。

第2回 『吾輩は猫である』について

第3回 漱石文学におけるロンドン『趣味の遺伝』について

第4回 『坊っちゃん』について

第5回 『草枕』『二百十日』『野分』について

第6回 『虞美人草』について

第7回 『坑夫』『夢十夜』について

第8回 『三四郎』について

第9回 『それから』について

第10回 『門』について

第11回 『彼岸過迄』について

第12回 『行人』について

第13回 『心』について

第14回 試験の説明。まとめ。

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (80%) および授業への出席状況 (20%) で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るなので、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『増補 夏目漱石の作品研究』花書院 910.2/O-32/2

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー等

九州女子大学荻原研究室 (ogihara@kwuc.ac.jp)

心理学Ⅰ Psychology I (金曜 2 限)

全学科 第2、3 年次 前期 選択必修 2 単位

担当教員 麦島 剛

1. 概要

●授業の概要

心理学はこころの法則性についての実証的な学術である。その研究対象は多岐に及び、各々にふさわしい研究方法がある。このため、心理学は大きく二分される。一つは、実験研究によって実証する分野であり、知覚・認知・記憶・学習などが扱われる。もう一つは、調査や面接などによって実証する分野であり、教育・人間関係・産業社会・こころの不調などが扱われる。この授業では、前者の領域、つまり実験心理学について概説する。

●授業の目的

実験心理学の諸分野について満遍なく概観し、そのエッセンスを理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。

2. キーワード

実験心理学・知覚・認知・記憶・学習・生理心理学

3. 到達目標

実験心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・こころのサイエンスとは？
- 第2回 心理学史
- 第3回 生理心理学1 神経系の構造と機能（1）
- 第4回 生理心理学2 神経系の構造と機能（2）
- 第5回 生理心理学3 神経系と意識・情動・記憶・思考との関係
- 第6回 ストレス理論1 生理学的ストレス理論
- 第7回 ストレス理論2 心理学的ストレス理論とストレスコーピング
- 第8回 知覚心理学1 視覚系の知覚 内的世界と外的世界は同一なのか？
- 第9回 知覚心理学2 聴覚系の知覚 音の精神物理学
- 第10回 認知心理学1 注意とその障害
- 第11回 認知心理学2 記憶とその障害
- 第12回 学習心理学1 学習の2つのプロセス
- 第13回 学習心理学2 学習理論の応用（臨床心理学やマイクロ経済学への応用）
- 第14回 まとめ 実験心理学の今後の方向性
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験 80%（中間の確認テストを含む）、出席 20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考文献

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他(2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社

8. オフィスアワー等

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

心理学Ⅱ Psychology II (金曜 2 限)

全学科 第2、3 年次 後期 選択必修 2 単位

担当教員 麦島 剛

1. 概要

●授業の概要

近年の社会変化（格差社会への変化等）に伴う抑うつ・自殺・いじめなどの臨床心理学的問題がひろく注目されるようになった。また、ゆとり教育・習熟度別授業・特別支援学校（学級）など、教育をめぐる議論が盛んである。これらの問題の検討と解決のためには、確かな心理学理論の理解が必要となる。

心理学Ⅰが実験心理学の概説であるのに対し、本授業では教育・社会系心理学を概説する。

●授業の目的

教育・社会系心理学について理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。なお、前期に心理学Ⅰ（麦島）を受講しているほうが本授業を理解しやすいと思われる。

2. キーワード

発達心理学・人格・知能・臨床心理学・心理療法・社会心理学・組織心理学

3. 到達目標

教育・社会系心理学全般に対する知識（理論と現象の両面）を身に着けること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション こころの問題の高まりについて
- 第2回 発達心理学1 発達理論の基本
- 第3回 発達心理学2 ピアジェの理論を中心とした発達理論（1）
- 第4回 発達心理学3 ピアジェの理論を中心とした発達理論（2）
- 第5回 教育心理学 発達障害児への支援を中心に
- 第6回 人格と知能の心理学1 性格とは？
- 第7回 人格と知能の心理学2 知能とは？
- 第8回 臨床心理学1 精神病理学
- 第9回 臨床心理学2 各種の心理療法（1）
- 第10回 臨床心理学3 各種の心理療法（2）
- 第11回 社会心理学1 社会的認知
- 第12回 社会心理学2 対人行動
- 第13回 組織心理学 組織行動論に基づく成果主義的人事の検討
- 第14回 まとめ 心理学と現代社会
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験 80%（中間の確認テストを含む）、出席 20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考文献

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他(2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社

8. オフィスアワー等

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

教育心理学 Educational Psychology (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学Ⅰ

Pedagogy I, the 2st period, Monday (月曜2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

家族と教育に焦点を合わせる。普遍的な現象と考えられがちな家族であるが、その形態や機能は、時代や文化によって様々に変化する。本講義では、家族が有する形態や機能を理解したうえで、現代日本の家族を取り巻く諸問題について考察を深められるようにする。

●授業の位置付け

まず、時代及び文化による家族のあり方の多様性について講義する。その上で、現代我々が自明視している家族が登場する過程について概観する。そして、現代家族が持つ教育機能とともに、それを取り巻く多様な問題群について考察を深められるようにする。

2. キーワード

近代家族 少子化 性別役割分業

3. 到達目標

- ①家族に関して相対的・批判的な思考方法を獲得できるようにする。
- ②現代家族を取り巻く諸問題について、自らの思考や考えを深められるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 家族の誕生
- 2回 日本近代家族の誕生
- 3回 結婚への途
- 4回 結婚を阻まれる人たち
- 5回 少子化は悪か？
- 6回 生殖技術と家族
- 7回 中絶と避妊のポリティクス
- 8回 「子をもつ」ということ
- 9回 青年期と家族
- 10回 児童虐待のポリティクス
- 11回 家族のリストラクチャリング
- 12回 現代の家族政策
- 13回 新しい「家族」のカタチ
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%

期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- 最高裁判所のホームページなどを通して、家族に関する判例に目を通すこと。
- その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書 379.9/H-3

山田昌弘『パラサイトシングルの時代』ちくま新書 367.4/Y-1

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅰ

Pedagogy I, the 1st period, Friday (金曜 2 限)

全学科 第2、3 年次 前期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代日本の教育問題について、臨床教育社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している教育言説を相対化する視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床教育社会学という立場から教育問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 臨床教育社会学 社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ①現代日本の教育問題に関する理解を深める。
- ②教育問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な教育言説を相対化する視点を獲得。
- ③レポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 少年犯罪言説と少年法改正
- 3 回 少年司法のポリティクス
- 4 回 地域防犯活動と子どもの安全環境
- 5 回 被害者なき犯罪
- 6 回 淫行規制条例のポリティクス
- 7 回 「有害メディア」規制のポリティクス
- 8 回 ニートとは誰か？
- 9 回 児童虐待と監視される家族
- 10 回 不登校と公教育の揺らぎ
- 11 回 いじめ自殺と子ども・家族・学校
- 12 回 マイノリティと学校教育
- 13 回 ジェンダーフリー教育論争
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

- 小レポート 30%
期末レポート 70%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・刑法に関する判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

- 酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版会 375.9/H-4
浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社 368.6/H-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ

Pedagogy II, the 2st period, Monday (月曜 2 限)

全学科 第1、2 年次 後期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 日本国憲法 子どもの権利条約 自己決定権 セクシュアリティ

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 子どもと子ども観
- 2 回 教育権論争
- 3 回 教科書裁判
- 4 回 義務教育就学拒否は可能か？
- 5 回 国公立女子校に男子は入学できるのか？
- 6 回 子どもの権利条約
- 7 回 校則と自己決定権
- 8 回 思想・信教の自由と学校
- 9 回 内申書開示請求事件
- 10 回 体罰と子どもの人権
- 11 回 いじめ自殺と子ども・家族・学校
- 12 回 学校事故と国賠請求事件
- 13 回 子どもとセクシュアリティ
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

- 小レポート 30%
期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・教育法に関する判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

- 東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3
佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 本館 図書館 373.2/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ

Pedagogy II, the 2st period, Friday (金曜 2 限)

全学科 第2、3 年次 後期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的な位置へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③文章表現能力を身につけること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 教育と社会・経済・政治
- 2 回 就学率と教育の発展段階モデル
- 3 回 近代日本の教育発展
- 4 回 途上国の教育問題
- 5 回 個人的投資としての教育
- 6 回 社会的投資としての教育
- 7 回 教育と市場のメカニズム
- 8 回 高学歴化と職業構造の変化
- 9 回 教育・職業・ジェンダー
- 10 回 戦後日本の教育史
- 11 回 教育問題と教育政策
- 12 回 現代教育改革の動向
- 13 回 日本型学歴主義の展開
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

- 小レポート 30%
期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
- ②各大学のホームページや企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しない。

●参考文献

- マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書 377/T-3
天野郁夫『学歴の社会史』UP 選書 372.1/A-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理

Principle of Education, the 1st period, Monday (月曜 1 限)

全学科 第1、2 年次 前期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 「教育」及びその近接概念について
- 2 回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3 回 教授法の変遷に見る教育観
- 4 回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5 回 教育と子育て
- 6 回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7 回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8 回 初等教育の現状と課題
- 9 回 中等教育の現状と課題
- 10 回 高等教育の現状と課題
- 11 回 家族・学校・地域の連携
- 12 回 不登校といじめ問題
- 13 回 児童虐待と少年犯罪
- 14 回 現代教育の再構築－情報化社会と生涯学習－
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

- 小レポート 30%
期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書、参考文献

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
 - 柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
 - 田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学

Sociology of Education, the 1st period, Monday（月曜1限）

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互规定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 2回 文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
- 3回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 メディアと教育
- 6回 現代の子ども文化
- 7回 現代の若者文化
- 8回 少年非行の社会学
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 学力とカリキュラムの社会学
- 11回 学校教育と職業
- 12回 教育政策の変遷と現在
- 13回 学校経営の現代的課題（1）
- 14回 学校経営の現代的課題（2）
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

成績評価

小レポート	30%
期末テスト	70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考文献

- 教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。
- 参考文献
 - 荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/S-8
 - 柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 376.3/S-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学 Introduction to Japanese Law (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになれること。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観
- 第2回 法律とは何か、判例とは何か
- 第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。
- 第4回 法律の解釈の仕方を知る①
- 第5回 法律の解釈の仕方を知る②
- 第6回 私法入門—民法の指導原理
- 第7回 民法上の権利
- 第8回 権利の限界—私権の公共性
- 第9回 権利の担い手としての資格①
- 第10回 権利の担い手としての資格②
- 第11回 権利の対象となる財産
- 第12回 取引行為と法①
- 第13回 取引行為と法②
- 第14回 取引行為と法③

5. 評価方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 五十嵐 清著 私法入門〔改訂3版〕有斐閣 324/I-2
- 2) 石川他編集代表『法学六法'09』信山社 320

●参考書

- 1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂〔補訂版〕法学 日本評論社 321/N-8
- 2) 佐藤幸治他著『法律学入門〔第3版〕』有斐閣 321/S-6
- 3) 我妻栄＝有泉亨＝川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324
- 4) 川井 健『民法総則第3版』有斐閣 324

8. オフィスアワー等

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法

Constitutional Law in Japan (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は、政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは、政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①—国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③—裁判所・憲法保障

5. 評価方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他編集代表『法学六法'09』信山社 320

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12/1
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕有斐閣 323.1/K-12/2
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
- 4) 芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

8. オフィスアワー等

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学Ⅰ SociologyⅠ (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と経験的(=実証的)知見は重要である。前期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の応用に焦点をおく。

●授業の目的

異なる社会の差異と類似性を観察し、それらの比較社会的な分析によって社会現象の出現するメカニズムを学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、現代の人間行動、社会、そして社会にかんする認識を深め、論理的な思考と社会的な表現の基礎を学ぶ。

2. キーワード

動機、価値志向、価値意識、逸脱、経営、社会階層、権力、政治、文化

3. 到達目標

現代のマスコミ、親族、社会階層、社会組織、教育、福祉、犯罪、政治、国際関係等についての基礎的な知識を習得し、現代社会についての認識を深める。

4. 授業計画:

- 第1回 導入講義
- 第2回 マスコミ 1
- 第3回 マスコミ 2
- 第4回 犯罪 1
- 第5回 犯罪 2
- 第6回 自殺
- 第7回 親族 1
- 第8回 親族 2
- 第9回 教育と社会階層 1
- 第10回 教育と社会階層 2
- 第11回 宗教と社会 1
- 第12回 宗教と社会 2
- 第13回 政治と社会 1
- 第14回 政治と社会 2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験(30%)、期末試験(50%)、レポート(20%)によって評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー(面談時間)等

井上の研究室(共通教育研究棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅰ SociologyⅠ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会システム構造と過程にかんする諸理論の応用を特に政治社会学に焦点をおいて学ぶ。

●授業の位置づけ

これは選択必修の「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。政治社会学の諸理論とその応用を学ぶことを通して、現代社会にかんする視野を広げ、あわせて社会科学的な認識能力と表現能力を修得することをめざす。

2. キーワード

産業化、都市化、民主化、都市化、社会階層、社会組織、権力、国家、社会的選択、象徴、文化

3. 到達目標

政治社会学の基礎概念と基礎理論を学び、政治現象についての異なる見方・議論を理解し、現象を評価する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 普遍的な権力現象
- 第2回 社会と国家
- 第3回 社会階層
- 第4回 利害と組織
- 第5回 選挙と政党
- 第6回 投票行動
- 第7回 議会と権力
- 第8回 官僚制
- 第9回 司法と権力
- 第10回 象徴・文化と政治
- 第11回 社会的選択(1)
- 第12回 国際関係
- 第13回 正義・公正・公平
- 第14回 社会的選択(2)
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験(20%)、期末試験(30%)、授業中の積極性(30%)、レポート(20%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。授業では演習での課題達成とプレゼンテーションが要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー(面談時間)等

井上の研究室(共通教育研究棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅱ SociologyⅡ (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間の行動、社会そして文化の認識にとって社会科学の理論と知見は重要である。後期のこの授業では、社会科学の一分野である社会学の基礎理論に焦点をおく。

●授業の目的

社会学の基礎理論として、行為（意思決定を含む）、相互作用（ゲーム理論を含む）、集合行為（集団と組織と社会ネットワークの理論を含む）、制度と規範、社会構造、複合社会システム、文化の基礎概念と基礎理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

この授業を通して、人間と社会と文化についての論理的な思考と社会学の基礎理論を学ぶ。

2. キーワード

意思決定、ゲーム理論、紛争、集合行為、権力、制度、社会構造、文化、社会的選択

3. 到達目標

基礎概念を理解すること、意思決定の問題を解くことができること、相互作用を含む社会過程の基本モデルを理解できること、集合体と社会階層についての理論を理解できること。

4. 授業計画：

- 第1回 導入（自由と秩序、正義と多様性）
- 第2回 行為・相互作用・社会構造・制度・文化
- 第3回 個体の意思決定
- 第4回 コミュニケーション相互作用
- 第5回 相互作用（ゲーム理論）
- 第6回 相互作用（ゲーム理論）
- 第7回 社会構造とコミュニケーション
- 第8回 集合行為論と資源動員論
- 第9回 組織とネットワーク
- 第10回 資源配分と権力
- 第11回 制度・規範・文化
- 第12回 社会的選択（集合体の意思決定）
- 第13回 複合社会システム
- 第14回 複合社会システム
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験（30%）、期末試験（50%）、レポート（20%）によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初に、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会学Ⅱ SociologyⅡ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会システム構造と過程にかんする諸理論の応用を特に計量社会学的方法に焦点をおいて学ぶ。

●授業の位置づけ

これは選択必修の「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。計量社会学の方法とその応用を学ぶことを通して、社会科学的な観察と分析の能力を学習し、あわせて表現能力を修得することをめざす。

2. キーワード

社会調査、クロス表分析、回帰分析、ブール代数分析

3. 到達目標

計量社会学の基礎理論と方法を学び、社会現象の計量分析を通して社会を分析する能力と、あわせて表現と発表の技法を修得することを目標とする。

4. 授業計画

- 第1回 行動の分布
- 第2回 社会調査
- 第3回 態度のクロス表分析
- 第4回 態度のクロス表分析
- 第5回 推測と検定
- 第6回 投票行動の回帰分析
- 第7回 投票行動の回帰分析
- 第8回 教育と社会階層のパス解析
- 第9回 教育と社会階層のパス解析
- 第10回 嗜好と評価の多次元尺度解析
- 第11回 潜在構造分析
- 第12回 分散共分散分析
- 第13回 ブール代数分析
- 第14回 時系列分析
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（20%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。予習・復習と、授業での演習及びプレゼンテーションが要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初と期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ（月曜1・2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

一国の経済における諸問題及び政府の経済政策を理解するためには経済学、特にマクロ経済学の知識が必要である。本講義ではマクロ経済学の標準的なテーマを取扱う。特に、戦後から現在に至るまでの日本経済の足跡を経済政策とその政策の背景にある経済理論を中心に考察することによってマクロ経済学に対する理解を深める。さらに、これらをベースに国際経済に関する基本理論を学び、日本経済と国際経済の将来について考えてみるのが本講義の目的である。

●授業の位置付け

最近、国際化や情報化の進展に伴い、経済システムも益々複雑になっているが、また経済に関する情報も簡単に入手できるようになった。しかしながら、その内容を理解して、それに対し自分なりの判断ができる人は意外と多くないと思われる。国内外の経済現状を理解するためには本授業で取り扱う諸理論に関する全般的な理解が必要である。

2. キーワード

「GDP」、「財政」、「金融」、「為替」、「景気」

3. 到達目標

- ・一国の経済の仕組みを学ぶことによって国際経済のメカニズムを理解する。
- ・現在われわれが直面している経済問題を分析し、問題解決の糸口を見出す力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 戦後からの日本経済の歩み ①
- 3回 戦後からの日本経済の歩み ②
- 4回 国民経済計算 ①
- 5回 国民経済計算 ②
- 6回 財市場 ①
- 7回 財市場 ②
- 8回 貨幣市場①
- 9回 貨幣市場②
- 10回 財政金融政策 ①
- 11回 財政金融政策 ②
- 12回 国際経済 ①
- 13回 国際経済 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

経済活動を営む各主体はお互いに影響を及ぼしながら様々な意思決定を行っている。本講義では、「ゲーム理論」を通じてその意思決定の相互依存について考察する。特に、実際の経済社会で発生している様々な事例を取り上げ、戦略的思考に対する理解を深めることによって経済主体として合理的な意思決定能力の向上を目指す。

●授業の位置付け

複数の経済主体がそれぞれの目的の実現を目指して相互に依存している状況を認識し、そのような状況の下で戦略的思考法に基づく意思決定のメカニズムを理解する。

2. キーワード

「戦略的思考」、「意思決定」、「不確実性」

3. 到達目標

- ・ゲーム理論の基礎を学び、戦略的行動とは何かを理解する。
- ・様々な経済現象に対して合理的な判断ができる思考力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション：市場と経済
- 2回 ゲーム理論の基礎
- 3回 戦略型ゲーム
- 4回 戦略的思考法
- 5回 展開型ゲーム①
- 6回 展開型ゲーム②
- 7回 交渉ゲーム①
- 8回 交渉ゲーム②
- 9回 繰り返しゲーム
- 10回 情報とゲーム①
- 11回 情報とゲーム②
- 12回 情報とゲーム③
- 13回 まとめ①：経済学とゲーム理論
- 14回 まとめ②

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（月曜1・2限）

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

経済を理解するにあたって最も重要なのは市場メカニズムに対する理解である。本授業ではまず、経済主体の行動理論、特に消費者の行動や生産者の行動に関する理論を学んだ上、その理論に基づいて機能している市場メカニズムについて学ぶ。また、その市場が不完全競争状態である場合どのような問題が発生するか、そして実際われわれが住んでいる社会が抱えている市場構造の問題点について考察する。

●授業の位置付け

近年、社会における様々な現象を分析する研究分野において経済学の概念を導入することが増えている。特に、都市、交通、環境などの分野では費用便益分析、ヘドニック・アプローチやゲーム理論のような経済理論が頻繁に利用されるようになった。これらの経済理論を有効に使用するためには、本授業で取り扱う経済主体の行動理論や市場理論を理解することが不可欠である。

2. キーワード

「効用最大化」、「利潤最大化」、「市場メカニズム」、「不完全競争市場」

3. 到達目標

- ・各経済主体の合理的な行動原理について理解する。
- ・各経済主体の行動が市場の形成や既存市場に与える影響について理解する。
- ・様々な経済問題を常に市場メカニズムに基づいて考える能力を培う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 市場とは何か？
- 3回 需要と供給
- 4回 効率性と公正
- 5回 公共財と外部性
- 6回 消費者の行動 ①
- 7回 消費者の行動 ②
- 8回 生産者の行動 ①
- 9回 生産者の行動 ②
- 10回 市場均衡の理論 ①
- 11回 市場均衡の理論 ②
- 12回 市場理論の応用 ①
- 13回 市場理論の応用 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

本講義は、新聞やテレビで日々報道されている経済現象を正しく理解するために必要な経済学の基礎知識の習得を目的とする。特に、経済記事や経済関連統計データを用いて日本や世界の経済動向に対する理解を深め、経済主体が実際に直面する様々な経済現象を広い視野をもって分析・判断する能力を養う。

●授業の位置付け

日本や世界経済と関連する時事トピックスとそれに対する経済専門家や政府関係者のコメントを理解し、今我々が置かれている経済状況を分析・判断するために必要な知識を学ぶ。

2. キーワード

「時事経済」、「経済政策」、「日本と世界経済」

3. 到達目標

- ・関連する統計データを収集・分析し、経済の現況を理解する。
- ・時事トピックスを取り上げ、その背景にある経済理論を理解する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ統計と経済の動向 ①
- 3回 マクロ統計と経済の動向 ②
- 4回 マクロ統計と経済の動向 ③
- 5回 経済政策 ①
- 6回 経済政策 ②
- 7回 経済政策 ③
- 8回 企業と経済 ①
- 9回 企業と経済 ②
- 10回 日本経済 ①
- 11回 日本経済 ②
- 12回 日本と世界 ①
- 13回 日本と世界 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の貨幣・富・経済発展の歴史（英語版）の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

政治学Ⅰ Political ScienceⅠ (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位
担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは「社会人」にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいがながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチとその実例への適用の仕方を理解することが目標である。特に、(切り離してイメージされがちな)日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明。
- 第2回 ことばと政治 シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む。
- 第3回 ことばと政治 「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む。
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1)。
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2)。
- 第7回 政官関係・公益法人論など。
- 第8回 戦争と政治(1)。
- 第9回 戦争と政治(2)。
- 第10回 従来の講義の補足と展開。
- 第11回 ナショナリズム論(1)。
- 第12回 ナショナリズム論(2)。
- 第13回 市民的实践とNGO(1)。
- 第14回 市民的实践とNGO(2)。
- 第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ Political ScienceⅠ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位
担当教員 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の運用能力の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになること、これらの分析・考察を論理的に表現し、かつ討論により発展させること、が目標である。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義(1)
- 第4回 自由主義と民主主義(2)
- 第5回 現実主義(1)
- 第6回 現実主義(2)
- 第7回 従来の講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任(1)
- 第9回 政治的責任(2)
- 第10回 保守主義(1)
- 第11回 保守主義(2)
- 第12回 従来の講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)。
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political ScienceⅡ (月曜1・2限)

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書(の抜粋)等の活字資料=プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義=筆記ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネット等も活用)、これをうけた討論等を特に重視する。

政治学は民主主義国の市民あるいは「社会人」にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいがながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会的化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義。

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチとその実例への適用の仕方を理解することが目標である。特に、(切り離してイメージされがちな)日常生活と政治現象の間の結びつきについて理解を深める。また、発表・討論などにより、多方向的なコミュニケーションの能力の養成をはかる。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明。
- 第2回 教育と政治、民主主義との関連など。
- 第3回 教育と政治、ケース・スタディ(1)。
- 第4回 教育と政治、ケース・スタディ(2)。
- 第5回 教育と政治、ケース・スタディ(3)。
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治。
- 第8回 開発と地方自治。
- 第9回 戦争責任論。
- 第10回 開発をめぐる国際政治(1)。
- 第11回 開発をめぐる国際政治(2)。
- 第12回 軍事化と平和研究(1)。
- 第13回 軍事化と平和研究(2)。
- 第14回 開発教育論など。
- 第15回 試験。

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political ScienceⅡ (金曜2限)

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下での現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

ナショナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

3. 到達目標

政治学の基本的なものの考え方の運用能力の習得をめざす。すなわち、政治学の基本的な概念やアプローチを実例に適用し、多面的な分析と理論的な考察ができるようになること、これらの分析・考察を論理的に表現し、かつ討論により発展させること、が目標である。

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 ナショナリズム(1)
- 第4回 ナショナリズム(2)
- 第5回 ナショナリズム(3)
- 第6回 文明の衝突?(1)
- 第7回 文明の衝突?(2)
- 第8回 文明の衝突?(3)
- 第9回 従来の講義の補足と展開
- 第10回 多元主義(1)
- 第11回 多元主義(2)
- 第12回 多元主義(3)
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)。
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ（月曜1・2限）

全学科 第1、2年次 前期 選択必修 2単位
担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国については均一化とローカル化との聞きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

相対主義的に考えるという disposition を身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1-親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2-普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3-相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1-構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2-構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解説法）
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology. Holt, Rinehart and Winston, inc.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion. Cambridge University Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ（金曜日2限）

全学科 第2、3年次 前期 選択必修 2単位
担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国については均一化とローカル化との聞きあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

相対主義的に考えるという disposition を身につけること。フィールド・ワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 フィールド・ワークの方法論1：理論編
- 第2回 フィールド・ワークの方法論2：実践編
- 第3回 ニューギニアのダリビ族の民族誌：アナロジックな親族
- 第4回 ニューギニアのダリビ族の民族誌（続き）
- 第5回 ニューギニアのGimi族の民族誌：交代するジェンダー
- 第6回 ニューギニアのPaiela族の民族誌：女が成長のエージェント
- 第7回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌：アナロジックなジェンダー
- 第8回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第9回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌（続き）
- 第10回 ニューギニアのpersonの概念とagentの概念：市場交換システムと贈与交換システム
- 第11回 東南アジアの民族誌：イントロダクション
- 第12回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第13回 東北タイ：生活世界分類と民族生物分類学1
- 第14回 東北タイ：生活分類と民族生物分類学2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 196 7. The Curse of Souw. CornellUniversity Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985、Culture、Thought、and SocialAction An Anthropological Perspective、HarvardUniversity Press.
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂.
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the GiftProblems with Women and Problems with Society inMelanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional StudiesⅡ（月曜1・2限）

全学科 第1、2年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との間ぎあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

相対主義的に考える disposition を身につけること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 ジェンダー パート1：定義と歴史的背景及びフェミニズムとの関係
- 第2回 ジェンダー パート2：その多様性と解釈
- 第3回 ジェンダー パート3：ポスト・モダンのジェンダー論
- 第4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ上映
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
- 第8回 グローバル化を考える4 Hip-Hopの感染力その2
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰－祖先の祟りを巡って－
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界－隠喩のフォース－
- 第12回 グローバル化を考える5 ロックの浸透力その2
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) Marilyn Strathern, 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ（金曜2限）

全学科 第2、3年次 後期 選択必修 2単位

担当教員 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界では人・カネ・モノが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との闘いあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。（関連する学習教育目標：X）

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

3. 到達目標

相対主義的に考える disposition を身につけること。フィールド・ワークという調査手法を理解すること。「文化」に関する差異を敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
- 第2回 呪術論基礎（1）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為。
- 第3回 呪術論基礎（2）－呪術の効果を巡って。
- 第4回 グローバル化を考える 3 Hip-Hopの感染力その2
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の呪術を中心に。因果関係とは何か。
- 第7回 事例検討3：言語行為論－アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
- 第8回 グローバル化を考える 4 ロックの浸透力
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：呪術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①-19世紀バリの都市国家：劇場国家論。
- 第13回 東南アジアの国家論②-タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論

第14回 総括

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves, The University of Chicago Press..
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion, Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー等

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ Contemporary PhilosophyⅠ

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

虚偽論法、メディア・リテラシー

3. 到達目標

テキストが提出する問題について、担当者を決めて毎時間、発表してもらい、それをめぐって討論する。そのことにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第3回 健康情報番組のウソ
- 第4回～第6回 リスクとベネフィット
- 第7回～第9回 フードファディズム
- 第10回～第12回 添加物バッシング
- 第13回～第15回 ニセ科学を見破る

5. 評価方法・基準

レポート 60%、毎回の発表と、討論への参加度 40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

8. オフィスアワー等

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

全学科 第2、3、4年次 後期 選択 2単位

担当教員 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

生命倫理、環境倫理

3. 到達目標

テキストが提出する問題について、担当者を決めて毎時間、発表してもらい、それをめぐって討論する。そのことにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 科学と政治経済

第3回～第5回 自然志向の毘

第6回～第9回 警鐘報道の功罪

第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

8. オフィスアワー等

月曜日：15:00～16:00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society（金曜3限）

全学科 第2、3、4年次 前期・後期 選択 2単位

担当教員 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

＜レポートに関する目標＞

- ①調査：インターネットで文献情報を検索し、必要があれば外部図書館を利用する。複数の資料を収集し、多面的に知識を得る。
- ②分析：収集した資料の情報を整理・分析する。これをもとにレポートの構成を考える。目次（章・節のかたち）にして表現する。
- ③プレゼンテーション：参考文献リスト、図表、その他の工夫
- ④オリジナリティ：独自の文体（資料の丸写し不可）、着目点、議論展開
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）：PR1以降の進歩

＜個別発表＞

- ①発表：簡潔にわかりやすく他履修生に自分のテーマを伝える質問に的確に答える。
- ②質疑：発表をよく聞き、的確な質問を考える。わかりやすく質問する。

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出

- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表
- ⑭ファイナルレポート提出

5. 評価方法・基準

プログレス・レポート1 25%
(上記レポート目標①から④各25%)

プログレス・レポート2 30% (①から⑤各20%)

ファイナル・レポート 40% (①から⑤各20%)

発表および質疑 5%

* 総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。

(担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出)

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ

Japanese Politics、Past and PresentⅠ (金曜3限)

全学科 第2、3、4年次 前期 選択 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本(の抜粋)や資料などを精読して学問的に(ジャーナリストチックに、ではなく)学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国(史)的な視野におちいらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治(制度)論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基いて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

第1回 イントロダクション。

第2回 人間性と政治(権力分立の問題など)。

第3回 自由・人権観。

第4回 戦後社会と管理化(1)。

第5回 戦後社会と管理化(2)。

第6回 戦後社会と管理化(3)。

第7回 東北アジアと日本(1)。

第8回 東北アジアと日本(2)。

第9回 東北アジアと日本(3)。

第10回 補足と展開。

第11回 琉球・沖縄と日本(1)。

第12回 琉球・沖縄と日本(2)。

第13回 宗教と政治(1)。

第14回 宗教と政治(2)。

第15回 戦争・戦後責任論。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論(80%)・レポート(20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力(知識、読解・思考、表現等)の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習(自ら補習)することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

●教科書 プリントを配布する他、相談して決定(複数)。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ

Japanese Politics、Past and Present Ⅱ （金曜3限）

全学科 第2、3、4年次 後期 選択 2単位

担当教員 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

各自の関心に基いて問題設定・分析・検証を行ない、分析と考察を論理的に表現できることをめざす。とくに報告と討論により、思考の深化と多面的な認識を形成する訓練を重ねる。これらの作業は、コミュニケーション能力の向上にも当然つながるはずである。

4. 授業計画

第1回 イントロダクション。

第2回 自由主義論（1）。

第3回 自由主義論（2）。

第4回 諸文明と「国際化」（1）。

第5回 諸文明と「国際化」（2）。

第6回 諸文明と「国際化」（3）。

第7回 市民社会論（1）。

第8回 市民社会論（2）。

第9回 市民社会論（3）。

第10回 補足と展開。

第11回 厚生行政をめぐる政治（1）。

第12回 厚生行政をめぐる政治（2）。

第13回 厚生行政をめぐる政治（3）。

第14回 政治的リアリズム。

第15回 日本の戦後政治史をめぐる。

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

●教科書 プリントを配布する他、相談して決定（複数）。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email:honda@dhs.kyutech.ac.jp

社会システム論Ⅰ

Social Systems Theories Ⅰ （金曜3限）

全学科 第2、3、4年次 前期 選択 2単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学的な知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会のミクロ理論としてのゲーム理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

ゲーム理論をとその応用を学ぶことを通して、社会現象のメカニズムの基礎となる相互作用過程の理解のための理論を学習し、あわせて現代社会にかんする視野を広げることをめざす。

2. キーワード

合理的選択、ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、混合戦略、部分ゲーム完全均衡、情報不完備

3. 到達目標

ゲーム理論の基礎概念と基礎理論を学び、社会的相互作用と制度を分析する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

第1回 合理的選択と人間行為

第2回 同時決定の場合の標準形ゲーム

第3回 混合戦略

第4回 囚人のジレンマ

第5回 マックスミニ戦略とミニマックス定理

第6回 展開形のゲーム

第7回 不完全情報

第8回 繰り返しゲーム

第9回 情報不完備ゲーム

第10回 情報不完備ゲーム

第11回 共有地の悲劇

第12回 契約と交渉

第13回 協力・制度・権力

第14回 進化ゲーム

第15回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験(20%)、期末試験(30%)、授業中の積極性(30%)、レポート(20%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

社会システム論Ⅱ

Social Systems Theories Ⅱ (金曜 3 限)

全学科 第 2、3、4 年次 後期 選択 2 単位

担当教員 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

工学あるいは科学・技術とその成果は社会と直結しており、社会科学の知識と認識能力の習得は必須の要請である。

●授業の目的

社会の構造理論の一つとして社会ネットワーク理論を学ぶ。

●授業の位置づけ

社会ネットワーク理論とその応用を学ぶことを通して、社会関係および社会構造一般をネットワーク構造として理解する能力を習得し、あわせて現代社会にかんする視野を広げることをめざす。

2. キーワード

ネットワーク、中心度、クリーク、ブロックモデル、構造ホール、ネットワーク複合、ネットワーク形成、ネットワークゲーム

3. 到達目標

社会ネットワーク理論の基礎概念と基礎理論を学び、社会関係と社会構造を分析する能力を修得することを目標とする。

4. 授業計画

第 1 回 ネットワークの考え方

第 2 回 グラフ理論の基礎

第 3 回 中心性

第 4 回 中心性

第 5 回 クリーク

第 6 回 クリーク

第 7 回 ブロックモデル

第 8 回 ブロックモデル

第 9 回 ダイアドアの分布

第 10 回 ネットワーク形成

第 11 回 ネットワーク形成

第 12 回 ネットワークゲーム

第 13 回 社会過程とネットワーク

第 14 回 社会過程とネットワーク

第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

中間試験 (20%)、期末試験 (30%)、授業中の積極性 (30%)、レポート (20%) で評価する。100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー（面談時間）等

井上の研究室（共通教育研究棟 3 階）の前とホームページの掲示板に掲示している。

都市経済学 Urban Economics (金曜 3 限)

全学科 第 2、3、4 年次 前期 選択 2 単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

戦後、世界各国において都市化が急速に進行しており、日本の場合人口の約 6 割以上が都市に居住している。本授業では、我々の経済活動の中心になっている都市を経済学の観点から考えてみる。特に、都市経済学の理論や分析手法を習得することによって都市の形成・立地問題をはじめ、様々な都市問題を考えると同時にその政策に対する理解を深める。

●授業の位置付け

政府や住民が都市に居住しながら直面している様々な問題を理解し、その解決策を考える上で必要な基礎知識を学ぶ。また、外国語（英語）を輪読することによって都市経済学の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「都市化」、「立地」、「住宅」

3. 到達目標

- ・都市経済学の基本的な考え方や理論の理解
- ・都市問題に対する諸政策の理解

4. 授業計画

① Definitions of Cities and Urban Growth

② Aggregate Analysis of Metropolitan Areas

③ Land Use Controls

④ Housing problems and Policies

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命 [英語 (日本語字幕入り) 版] の視聴を進める。VOD は付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

W. T. Bogart (1998), The Economics of Cities and Suburbs, Prentice Hall. の一部を随時配布する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

産業と規制の経済学 Industrial Organization (金曜3限)

全学科 第2、3、4年次 後期 選択 2単位

担当教員 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

本講義では、産業組織論における多様なテーマを取り扱い、現代の産業や企業の行動を理解するための基礎知識を習得する。特に、「市場メカニズム」の意義と役割に対する理解を通じて、産業組織の問題点やその対策について考察する。

●授業の位置付け

市場の構造や産業政策の影響などを供給サイドから分析することによって市場が有効に機能するために必要な条件に対する理解を深める。また、外国書(英語)を輪読することによって産業組織論の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「産業政策」、「企業」、「市場」、「規制」

3. 到達目標

- ・市場経済のメカニズムを産業組織の状況や理論を通じて理解する。
- ・政府による規制や規制緩和など産業政策の重要性を理解する。

4. 授業計画

- ① What Is Industrial Organization ?
- ② Market Structures and Market power
- ③ Perfect Competition, Monopoly and Oligopoly
- ④ Government Policies

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命[英語(日本語字幕入り)版]の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

L. B. Cabral (2000), Introduction to Industrial Organization, The MIT Press, D. W. Carlton and J. M. Perloff (2005), Modern Industrial Organization の一部を随時配布する

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

教育システム論

Educational Systems Theory (金曜3限)

全学科 第2、3、4年次 後期 選択 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システム、福祉システムとの接点に発生する少年非行現象を取り上げ、少年非行の社会的背景やそれが教育システム等に及ぼす影響、通俗的な少年非行言説を批判的に検証する視点を獲得する。

●授業の位置付け

少年非行統計の見方、少年非行の原因論、少年非行の事例研究、教育システム・司法システム・福祉システムと少年非行とのかわりなどについて、順次講義していく。また、参加者には、少年非行問題に関して1回程度プレゼンテーションを求め、それに対し全員で討議する。

2. キーワード

少年非行 少年法 社会問題の構築主義 非行下位文化 アノミー論 ラベリング論

3. 到達目標

- ① 少年非行の現状に対する理解を深める
- ② 通俗的な少年非行言説を批判的に検証しうる視点を獲得する。
- ③ プレゼンテーションやレポート作成など、表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

- 1回 少年非行統計の見方
- 2回 構造機能主義的原因論
- 3回 シカゴ学派の理論
- 4回 ラベリング論と社会問題の構築主義
- 5回 欧米における少年非行対策の変遷
- 6回 日本の少年非行対策の変遷と少年法改正問題
- 7回 環境管理と監視社会
- 8回~13回 事例研究・判例研究
- 14回 まとめ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
期末レポート 50%
プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- その他、少年事件や少年非行対策に関する最新の動向に注意すること。

7. 教科書・参考文献

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献
授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

科学日本語 Basic Technical Writing

全学科 第2～4年次 後学期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン恭子、橘 武史

1. 概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら語を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

2年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べるができるようになりたいと思う学生を対象とする。初めから書ける必要はない。ただし、他人の意図を理解しようとして聴く力が必須である。

2. キーワード

「科学技術」「要旨」「意見文」「根拠」「エンジニア」

3. 到達目標

- ・キーワードや段落構成を考えながら要旨が書ける
- ・根拠に基づいて自分の意見が述べられる
- ・技術の背景や将来性についてより広い見方ができる
- ・エンジニアとして必要なコミュニケーション能力に関して自己評価ができる

4. 授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは特別講義を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士の）評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の意見をまとめる練習をする。また、第1、4、8回にはエンジニアとして実際に遭遇する場面例を紹介し、そこでどのような資質が求められるかなどについても議論する。

- 第1回 オリエンテーション：まずやってみる；日本語で科学はできない？
- 第2回 要約のしかた（1）キーワードを探す；バイオメトリクス認証
- 第3回 要約のしかた（2）段落を作る；安全技術車
- 第4回 要約のしかた（3）中心文を置く；折り紙の不思議
- 第5回 要約のしかた（4）まとめの書き方；ペットボトルリサイクル
- 第6回 意見を書く（1）感想から出発；スペースシャトル事故
- 第7回 意見を書く（2）どこに注目するか；無人IT基地
- 第8回 意見を書く（3）事実の見方は正しいか；脳科学の応用
- 第9回 意見を書く（4）別の視点から見たら；ICTタグ
- 第10回 意見を書く（5）将来的には？；ナノテクで人体を作る
- 第11回 特別講義を聴いて討議する：電磁波の生体に対する影響（岡本良治先生）
- 第12回 特別講義を聴いて討議する：バリアフリー技術におけるニーズの衝突（寺町賢一先生）
- 第13回 特別講義を聴いて討議する：車なし社会の実現（橘武史先生）
- 第14回 まとめ ー自己評価と授業評価ー

5. 評価方法・基準

毎回の要旨（40%）、授業への参加度（20%）、意見文課題（40%）の伸びで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー等

月曜日4限

選択日本事情 A Elective Japanese Culture and Society A

全学科 第2～4年次 前期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ① 日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
- ② 討議に積極的に参加して考えを深める
- ③ 異なる文化、社会について理解する。
- ④ 日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 日本料理と食生活
- 第4回 しつけとマナー、人間関係
- 第5回 若者文化
- 第6回 年中行事
- 第7回 まんが（世界に発信する現代日本文化）
- 第8回 結婚と女性
- 第9回 住宅事情と住文化
- 第10回 宗教と信仰
- 第11回 労働観
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 外国から見た現代日本

5. 評価方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

自分の意見を分かりやすく伝えようと努力すること。相手の実情を理解しようとし、日本との違いはどこからくるのか考えを深めること。関連する項目について図書館等で資料を探して学習する習慣を身につけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー等

月曜日3限

選択日本事情 B Elective Japanese Culture and Society B

全学科 第2～4年次 後期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。

その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価方法・基準

発表（50％）及び毎回のノート（30％）授業への参加度（20％）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー等

月曜日3限

英語科目についての全般的説明

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に4技能を習得することを目指しており、その目標の例の一つは英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイスメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A IIを補完すべく、読解力を中心に4技能をまんべんなく学ぶ。目標の例の一つは英語で発行された新聞などの印刷物を、自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A IIや B I / B IIにおける学習内容を深め、レベルを高めることを目標としている。具体的な役割は2年次以降に開講されている（一部1年次より）上級英語などへ繋がる科目であり、大学生として必要最低限の英語運用能力を身につけることを目標としている。各学科で開講されている英語科目や英語を使用した科目にも繋がる科目である。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話を中心として4技能を学ぶ。作文なども特徴の一つ。）

総合英語 B（読解を中心として4技能を学ぶ。聴解力、作文能力、あるいは発信能力を並行して行うこともある。）

総合英語 C（総合英語 A、Bを発展させた内容。具体的内容は担当教員によりさまざまなものを用意している。）

3. 履修上の注意

- 1）3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 2）開講年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教員による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3）編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 4）総合英語 A I / A IIについては、入学当初に行われるプレイスメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語 A コーディネーターへ相談すること。
- 6）必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B、C と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。英語が苦手な学生から、総合英語でできない内容を求める学生まで幅広く対応している。多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分にあった授業を選択する。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1）同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2）演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について

（選択科目：2年次以上、条件付で1年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1）1年次で履修する（履修可能科目は、上級英語 A I、A II、上級英語 B I、B IIのみ）学生のみ T O E I C 500 点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。2年次より履修する学生は、総合英語 A と B の単位を取得済みであることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
- 2）演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
- 3）同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
- 4）鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
- 5）T O E I C スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

（註）大学院においても英語（ロング、ラクストン）、言語学特論（村田）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

担当学年：1 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth Steele, Andrew Watt, Adam Stott, Alex Bodnar,

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English

(b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions

(c) To practice the writing of English paragraphs and compositions

(d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2） Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a Placement Test at the beginning of the year.

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Language to go - Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー等

Mondays, 12.00-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

授業で実践した勉強法を身に付け、今後の自主学習に活用する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Cavegirls Were First Blondes to Have Fun
3. 発表
4. Unit 3 Fast-food 'Healthy Options' Still Full of Fat and Salt
5. 発表
6. Unit 5 Caring Enough to Stamp 'I Love You'
7. 発表
8. Unit 7 Growing Up Potter
9. 発表
10. Unit 9 China Syndrome
11. 発表
12. Unit 13 Service with a Motto: A Japanese Chain Arrives
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書：Global View（朝日出版社）

What Are Your Travel Plans?（松柏社）

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：建設社会工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科
総合システム工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、時事英語を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。高校までに学習した英語を、社会での実際の使用に耐えるよう、さらにステップアップさせるべく、様々な I T を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい。

2. キーワード

国際英語、I T、英語発音、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I、I T 利用法
2. 国際英語のすすめ II、I T 利用法
3. 発音記号；母音の発音法 I、時事英語
4. 発音記号；母音の発音法 II、時事英語
5. 発音記号；子音の発音法（破裂音）、時事英語
6. 発音記号；子音の発音法（摩擦音）、時事英語
7. 発音記号；子音の発音法（破擦音）、時事英語
8. 発音記号；子音の発音法（接近音）、時事英語
9. 発音記号；子音の発音法（鼻音）、時事英語
10. 発音記号；子音の発音法（半母音）、時事英語
11. 連結発音 I、時事英語
12. 連結発音 II、時事英語
13. 連結発音まとめ、時事英語
14. 復習質問他
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（CD 2 枚付き）（三修社）
2. News Digest Beginners(The japan Times)
- 3.（参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30 - 4：00

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題についての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad' s Lack of Parenting
12. Dad' s Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験— 60%
 - (2) 授業での小テスト— 20%
 - (3) 授業での発表やレポート— 20%
- 総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues(Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定するような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

環境、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界的に膾炙している文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニングについては、英語検定試験にも役立つ、基礎的な練習問題に取り組む。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (1)
3. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (2)
4. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (3)
5. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (4)
6. Our Stolen Future by Theo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (5)
7. Review Test
8. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (1)
9. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (2)
10. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (1)
11. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (2)
12. The Selfish Gene (1)
13. The Selfish Gene (2)
14. The Selfish Gene (3)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験 60%、小テスト、授業中の作業など 40%。積極的な発表などの参加点を考慮する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：SCOPE (研究社)

Listening Star (Basic) Pearson Longman

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも 1 つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

2. キーワード

多読英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

手段としての英語を発見し、自分の必要に応じて情報を獲得・楽しめるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第 1 回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第 2 回 歌詞の英語 I
- 第 3 回 歌詞の英語 II
- 第 4 回 歌詞の英語 III
- 第 5 回 新聞・雑誌の英語 I
- 第 6 回 新聞・雑誌の英語 II
- 第 7 回 新聞・雑誌の英語 III
- 第 8 回 新聞・雑誌の英語 IV
- 第 9 回 エッセイの英語 I
- 第 10 回 エッセイの英語 II
- 第 11 回 エッセイ・ライティング
- 第 12 回 スピーチ・プレゼンテーション I
- 第 13 回 スピーチ・プレゼンテーション II
- 第 14 回 スピーチ・プレゼンテーション III
- 第 15 回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 小レポート (40%) 期末レポート (30%)
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語でスピーチする際には、情報を整理する論理的思考力と、整理された情報を効果的に伝達する表現力が不可欠である。この授業では、スピーチの構成や、効果的な伝達方法を段階的に学び、最後にスピーチを実践することで、論理的思考力と表現力を磨く。

2. キーワード

スピーチ、論理的思考力、表現力

3. 到達目標

スピーチの構造および効果的な伝達方法を習得し、人前でスピーチに対する苦手意識を緩和する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 身体構成と内容の構成
3. Unit 6 プレゼンテーションの構成①the introduction
4. Unit 7 プレゼンテーションの構成②the body/the discussion
5. Unit 8 プレゼンテーションの構成③the conclusion
6. Unit 11 情報伝達型のプレゼンテーションの特徴
7. Unit 12 説得型プレゼンテーションの特徴
8. Unit 2 恐怖心を克服する
9. Unit 5 声の効果と発音の明瞭さ
10. Unit 3 聴くことの重要性
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・ 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・ 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ 毎回辞書を持参すること。
- ・ インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Speaking in Public (成美堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、時事英語を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。前年度までに学習した英語を、社会での実際の使用に耐えるよう、さらにステップアップさせるべく、様々な IT を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい。

2. キーワード

国際英語、IT、英語発音、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の増強。

4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I、IT 利用法
2. 国際英語のすすめ II、IT 利用法
3. 発音記号；母音の発音法 I、時事英語
4. 発音記号；母音の発音法 II、時事英語
5. 発音記号；子音の発音法（破裂音）、時事英語
6. 発音記号；子音の発音法（摩擦音）、時事英語
7. 発音記号；子音の発音法（破擦音）、時事英語
8. 発音記号；子音の発音法（接近音）、時事英語
9. 発音記号；子音の発音法（鼻音）、時事英語
10. 発音記号；子音の発音法（半母音）、時事英語
11. 連結発音 I、時事英語
12. 連結発音 II、時事英語
13. 連結発音まとめ、時事英語
14. 復習質問他
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 50%、期末試験を 50%とする。
活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（CD 2 枚付き）（三修社）
2. News Digest (The Japan Times)
3. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30－4：00。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

科学分野の知的好奇心を刺激する英文を読むことにより英語の総合能力を向上させる。将来科学分野の英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Living in Space
3. Living in Space
4. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
5. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
6. Basic Biochemistry
7. Basic Biochemistry
8. How does an Airplane fly?
9. How does an Airplane fly?
10. Robots for Space
11. Robots for Space
12. Physics of Roller Coasters
13. Physics of Roller Coasters
14. Apollo Rocket Part I
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

現代社会の様々な問題についての記事や資料を読み、それについて考える授業である。インプット作業において読解能力を伸ばし、時事問題のバックボーンについて学習する。得られた知識や表現を使って、アウトプットの練習も行いたい。

2. キーワード

時事問題

3. 到達目標

現代社会の抱える問題について、基本的な事項を英語で理解することができるようになること。また、自主的に問題について考察することができるようになること。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Human Rights
3. Peace
4. War
5. Earth
6. Environment
7. Water
8. Revise Test 1
9. Famine
10. HIV/AIDS
11. Poverty
12. Gender
13. Globalization
14. Refugees
15. Revise Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業内での作業を総合して行う。総合評価で60点を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：江原裕美、岡津守男 「地球と人類の諸問題を考える」 (南雲堂)

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

4. 授業計画

第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング

第2回 Conclusion/Reasons (1)

第3回 Conclusion/Reasons (2)

第4回 Conclusion/Reasons (3)

第5回 Conclusion/Reasons (4)

第6回 Explanation (1)

第7回 Explanation (2)

第8回 Explanation (3)

第9回 Explanation (4)

第10回 Process (1)

第11回 Process (2)

第12回 Process (3)

第13回 Process (4)

第14回 課題作成

第15回 課題発表

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること

自主学习として、図書館の *Japan Times* や、インターネットで週刊 *ST*、*Daily Yomiuri* などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 江口 雅子

1. 概要

国際化した現代社会において、いずれ社会に巣立つ学生が異文化を理解することは重要である。本授業では、日本人の観点、アメリカ人の観点両方からアメリカの文化を理解する。英語の読解力、聴解力を中心として4技能を学び、語彙と文法の力も付けることを意図し、大学生に必要な英語運用能力を習得させる。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、国際性

3. 到達目標

本授業では、教科書であるテキストを十分に読みこなすことを目指し、大学生として必要な英語読解能力を習得させることを到達目標とする。またリスニング能力については単語力、文法力、予想力、文化的背景知識を必要とする総合力であるから、毎回生きた素材の英語を聞き取ることを到達目標とする。主に英語読解能力、リスニング能力による英語力に焦点を当てることにより、ライティング能力、スピーキング能力をも引き出し、全般的運用能力の向上を目指す。

4. 授業計画

1. Introduction

2. Seeking Good Health—The American love of vitamins

3. Americans who prefer weak stuff

4. Good American Ideas—Buying in bulk

5. Getting a driver's license easily

6. Selling textbooks after exams

7. Admirable American Manners—The rules of introductions

8. Holding the door for other people

9. Customer Service—The troublesome custom of tipping

10. How Can They Do That?—Noisy movie theaters

11. Sharing a room with a stranger

12. Scary public restrooms

13. This is an American Family—Independent - minded children

14. Husbands controlling the family budget

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業出席・発表点50%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

・全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。

・講義内容の十分な理解を得るために、予習、復習を必須とする。

・「今の」英語に触れるため、NHKテレビあるいはラジオの英語語学番組を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Eye on America — Japanese and American Views of U.S. Culture (三修社)

参考書：リーダーズ英和辞典、リーダーズ・プラス (研究社)

Longman Dictionary of English Language and Culture (文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

Seiko, Sharp, Casio の電子辞書 (英語専用モデル) を勧める。

8. オフィスアワー等

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、これからの英語学習につながる、難易度の高い英語の読解を目指す。しかし、2 年次以降に必要な英語のスキルとして、科学的な英語表現のマスターも学生にとっては有用であるといえる。したがって、本授業では主に科学的な内容の含まれる文章を取り上げ、それと同時に難易度の高い英語表現も学習する。

2. キーワード

生物、環境、科学

3. 到達目標

本授業は、科学雑誌“Science News”誌の記事を扱った教科書を用いて読解の能力を磨き、更に難解な英語表現を読解することで、様々な英語の文章に対応できるスキルを身に付けることを目標とする。更に、比較的長い文章を聞くことで、リスニング能力の育成にも力を入れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Talk to the Hand — Language might have evolved from gestures
3. No Place Like Om — Meditation training puts oomph into attention
4. Unstoppable Bot — Armed with self-scrutiny, a mangled robot moves on
5. Mafia Cowbirds — Do they muscle birds that don't play ball?
6. Nice Shot - Hepatitis E vaccine passes critical test
7. Cleaning Treasures — Safer solvents for restoring frescoes
8. Pothole Pals — Ants pave roads for fellow raiders
9. Violent Justice — Adult system fails young offenders
10. Why So Dry? — Ocean temperatures alone don't explain droughts
11. Formula for Panic — Crowd-motion findings may prevent stampedes
12. Low Life — Cold, polar ocean looks surprisingly rich
13. In the Zone — Extrasolar planet with the potential for life
14. Ancient Extract — T. rex fossil yields recognizable protein
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、提出課題30%（予定）。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。この評価基準は現在の予定です。正確な評価基準は第1回目の授業の際に告知します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、十分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Speaks（最新科学の贈り物）金星堂

※関連した記事があればその都度配布します。

参考書：※予習には辞書が必要となってきます。

- ・電子辞書（できれば英語専用モデルのもの）があると便利でしょう。
- ・英英辞書（Oxford Advanced Learner's Dictionary 等）も使えると英語学習に役立ちます。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー等はありませんが、質問がある場合には、e-mail等で受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 梅田 真理

1. 概要

本授業では、社会問題や海外のトピックについてのリーディングを読み、そしてそれぞれのトピックに関して英語で考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通して意見を述べるができるように演習を行います。

2. キーワード

社会問題、異文化理解

3. 到達目標

英語で時事問題を読むことに慣れ、学生自らインターネットや新聞などから英語で書かれた情報を入手し、意見を伝えることができるようになることを目標としています。本授業では、その方法を学んでもらいたいと思っています。

4. 授業計画

1. Chapter 1 : The key to success in the information age
2. Chapter 2 : Personalities according to blood types
3. Chapter 3 : One Titanic love affair
4. Chapter 5 : Make the connection
5. Chapter 6 : Problems of a Thoughtless vegetarian
6. Chapter 7 : An escape from Japan (1)
7. Chapter 8 : An escape from Japan (2)
8. Chapter 9 : An international marriage fraud incident
9. Chapter 10 : From campus with love — the E-mail connection
10. Chapter 11 : Plastic surgery is not the answer
11. Chapter 13 : The joy of service
12. Chapter 14 : A nation being washed away
13. Chapter 15 : Chocolate Industry charms every Brit's
14. Chapter 17 : Cinderella in China
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（中間・期末）70%、小テスト20%、発表10%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・リーディング中心ですが、発表やディスカッションも多く取り入れるので、積極的に参加するようにしてください。
- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失います。
- ・内職、携帯電話の使用、厳禁。もし違反しているものを見ついたら、退室してもらいます。
- ・教科書を必ず購入すること。購入しない場合は履修資格を失うことになるので、注意してください。

7. 教科書・参考書

教科書：『リーディング中心の英語総合演習』（金星堂）

8. オフィスアワー等

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 上村 隆一

1. 概要

理工系学生が各自の専門分野に進むための基本的な知識を習得しながら、論理的な英文の構成・展開方法を学ぶ。その上で、具体的な自然科学分野の英文教材を使いながら、基礎語彙・特有の語法と効果的な読解スキルを身につけることができるよう、例題とエッセイの実例を使った演習を行う。

2. キーワード

文章構造、論理展開、技術語彙、パラグラフ・リーディング

3. 到達目標

理系学生に必要な英語基礎技術語彙・語法の習得と論理的な英文の構造理解および読解スキルの向上。

4. 授業計画

1. Introduction — Course overview
2. Reasons/Conclusions
3. Analysis (Social Phenomena)
4. Analysis (Evidence)
5. Controversy
6. Comparison/Contrast
7. Classification
8. Chronological Order (History)
9. Cause & Effect
10. Process Analysis
11. Explanation (Theory)
12. Definition
13. Explanation (Experiment)
14. Graph Analysis
15. New Business

5. 評価方法・基準

期末試験 (50%) および授業時の小テスト (30%) および授業時課題 (20%)

試験・テスト平均が60%を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまままで理解できるように努力してください。

7. 教科書・参考書

Y.Ishitani & S.Embury: *Outlook on Science and Technology — Skills for Better Reading* III (南雲堂、2007)

8. オフィスアワー等

特になし。科目担当者への質問等は uemura@env.kitakyu-u.ac.jp までメールでお願いします。(携帯メールは不可。)

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 坂口 由美

1. 概要

このクラスではさまざまな会話の場面で用いられる表現を学び、それを応用し運用できる力をつけることを目標とする。

同時に基本的な英文法も取り入れ、練習問題をするることによってこれまでの知識をさらに確実なものにすることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、国際理解、外国事情、コミュニケーションング リッシュ

3. 到達目標

国際人を目指すために必要な最低限の日常会話ができるようになること、同時にどんな場面に遭遇しても英語を使うことに物怖じしない態度をやしなう。

4. 授業計画

1. 授業計画及び授業内容の紹介
2. あいさつ
3. 紹介
4. あいづち
5. 聞き返し
6. 感謝
7. 謝罪
8. 依頼
9. 勧誘・招待
10. 提案
11. 助言
12. 同意
13. 意見
14. 総復習・試験前対応
15. 試験

★ 授業形態は学生を中心とした演習方式で行う。

5. 評価方法・基準

- ・期末試験70% 出席30%
- ・総合評価で60%以上を合格とする。
- ・期末試験については筆記は行わず、グループでの発表形式とする。
- ・授業中の積極的な発表、無遅刻、無欠席については加算点あり。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・授業全体の3分の2以上の出席がない場合は履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは減点、除名もあり。
- ・辞書必携
- ・予習・復習は必須。特に復習についてはその日に学習した表現を繰り返し練習し、暗記することで表現力アップにつながる。
- ・TV・DVD・映画等を利用し、英語圏の文化や日常会話表現などに親しんでおく授業がより理解しやすくなる。

7. 教科書・参考書

Enjoy Speaking (Asahi Press)

8. オフィスアワー等

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではアカデミック領域に関する様々な内容を読む。語、慣用表現、修辭的特徴について学び、辞書や文脈の有効な活用法を練習する。読解に重点を置くが、読んだ内容について話したり書いたりする活動も行う。

2. キーワード

Academic reading, Academic words, Reading comprehension, Reading skills

3. 到達目標

アカデミックテキストをある程度のスピードを持って読み、理解し、必要な情報を得ることができる。

4. 授業計画

1. Learning Styles
2. Stress in College Life
3. Education
4. Business
5. Marketing
6. Economics
7. Psychology
8. History
9. Political Science
10. Linguistics
11. Environmental Science
12. Geology
13. Chemistry
14. Information Science and Technology
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (30%)、中間試験 (20%)、クイズ・課題 (30%)、授業への積極的参加 (20%)。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 以上の出席がないと履修資格を失う。

予習・復習を必ず行う。

7. 教科書・参考書

Introduction to Academic Reading [Cengage Learning]

8. オフィスアワー等

kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

件名欄に氏名と学生番号を書いて下さい。

総合英語 C I Comprehensive English C I

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 香子

1. 概要

昨今では様々な手段で情報を手に入れることができる。しかし、文字で書かれた全ての情報が客観性を持つとは言いがたく、(母国語でも同様だが) その内容を読み解き、その信憑性を判断しなければいけない時代にあることは否めない。現在社会で議論されている数々のトピックを今一度英語で読むことで読解力など英語の技能を養うことはもちろんだが、それに対してどのような意見を持つか、それはなぜかなどを共に考え、情報分析能力を高めることも本課目の目的である。

2. キーワード

カルチャラル・リテラシー、社会 (国際) 問題、情報分析、判断力養成

3. 到達目標

ある程度長さがある英文を読み、系統立てて理解する能力を伸ばすだけでなく、リスニング力、アクティビティを通してその中に出てくる英語表現を口頭・文章で活用する力を伸ばす。また、読解後の各々の分析と意見も到達の目安とする。最終的には、英語を異質な「記号」として捉えず、情報を得るためのソースとして活用できるようにしたい。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Information and Misinformation
3. Saving Tropical Rainforests: Creative Approaches
4. Concerning Happiness
5. Gizmo Addiction
6. Coping with Noise
7. The Whaling Debate
8. Food: Not Just a Commodity
9. Sweatshop Labor
10. Japan's Declining Population
11. Poverty: Meeting the Millennium Development Goals
12. Global Warming: Beyond Kyoto
13. Energy: Is Nuclear Power Part of the Solution
14. まとめ
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験60%、アクティビティ・小テストなど授業中の活動40%。授業での積極的発表を参加点として考慮する (逆の場合点がマイナスされることもある)。総合評価で60%以上が合格となる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業の予習・準備はもちろん、復習・テストの準備など、授業に有効な活動は自主的に行うこと。(評価の対象にもなる)
- ・授業中に社会人としてのマナーを守る事も必須。大幅な遅刻は欠席とみなし、授業態度が悪質な場合は除名する。みなで気持ちよく学習できる環境を作る態度が最も望ましい。

7. 教科書・参考書

Confronting the Issues 世界と向き合うための12章 (金星堂)
プリント 他

8. オフィスアワー等

質問等は授業前後に受け付ける。

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
- 2) To deepen their understanding of current events in the world

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：ediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

4. 授業計画

- | | |
|---------|---|
| Week 1 | Explaining Japanese Sports and clubs |
| Week 2 | Explaining Japanese Music |
| Week 3 | Explaining Japanese Food |
| Week 4 | Explaining Japanese Handicrafts |
| Week 5 | Explaining Japanese Holidays |
| Week 6 | Explaining Japanese Games |
| Week 7 | Explaining Japanese Cities and Places |
| Week 8 | Explaining Japanese Relaxation Practices |
| Week 9 | Explaining Famous Japanese People |
| Week 10 | Explaining Japanese Superstitions |
| Week 11 | Explaining Japanese Animations |
| Week 12 | Explaining Japanese Arts and Theater |
| Week 13 | Explaining Japanese Etiquette and Customs |
| Week 14 | Explaining Japanese Buildings and Gardens |
| Week 15 | Exam |

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.

Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
Tuesday: 10:00 - 5:00

中級英語Ⅰ Intermediate EnglishⅠ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

主体的な英語学習態度を身に付ける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 University Lifestyles
3. 発表
4. Unit 2 Career Choices
5. 発表
6. Unit 7 Love in the Virtual World
7. 発表
8. Unit 8 The Wonderful World of English(es)
9. 発表
10. Unit 10 Be a Critical News Consumer
11. 発表
12. まとめ
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：World in Motion: Life in the 21st Century (金星堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語Ⅰ Intermediate EnglishⅠ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：前期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 Angkor, Cambodia
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Mausoleum of the First Qin Emperor, China
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Ajanta Caves, India
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Gusuku Sites, Kingdom of Ryukyu
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Petra, Jordan
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Historic District of Quebec
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 Rapa Nui National Park
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students.
(Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- To make students feel more confident about using English for communication.

4. 授業計画

1. Introductions
2. Getting ahead
3. Modern survival
4. Coincidences
5. Friends
6. Small talk
7. True love
8. The daddy of discipline
9. That's funny
10. A perfect weekend
11. Just the job
12. In the media
13. Ready to cook!
14. Revision
15. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
 - do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
 参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

Week	Topics	Interaction	Grammatical focus
1.	Crazy Fashions the Norm	Paired Interviews	(Responding to Opinions; making observations)
2.	Marriage Under the Microscope	Consultations	(Summarizing; reacting; recommending)
3.	Wireless Japan	Debates	(Accepting, rejecting statements; mediating)
4.	My Grandfather's Binbogami	Group Work	(Forming a consensus, sharing opinions)
5.	Review	Paired Discussions	All forms
6.	E-Commerce	Surveying	(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)
7.	Rap and Hip-Hop Music	Paired Interviews	(Responding to Opinions; making observations)
8.	Review	Paired Discussions	All Previous forms
9.	Children: A Different Breed	Consultations	(Summarizing; reacting; recommending)
10.	Competitive Sports	Debates	(Accepting, rejecting statements; mediating)
11.	Women Managers	Group Work	(Forming a consensus, sharing opinions)
12.	Social Activists	Surveying	(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)
13.	Review	Paired Discussions	All forms
14.	Review	Paired Discussions	All forms
15.	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1-4116-28039

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
 Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B I Advanced English B I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ、海外情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等海外に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1 年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等海外を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EU のみならず殆どの国は今や英語だけで歩ける。

4. 授業計画

1. ヨーロッパのステレオタイプ
2. ヨーロッパ文化とは
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換(1)
12. インターネット情報交換(2)
13. インターネット情報交換(3)
14. インターネット情報交換(4)
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。

英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。予習しない学生は参加不可

7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture
 (成美堂)
2. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2:30 - 4:00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。
 murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B I Advanced English B I

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：前期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行なう。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーションできるレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8 割程度、またその延長線上にある presentation に 2 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・30%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・50%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上級英語 C I Advanced English C I

担当学年： 3、4 年次 担当学科：全学科
学期：前期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づく
ディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文など
である。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション
能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと
自分の意見が示せることが出来るようになることが目標であ
る。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的
思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験30%、平常点70%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条
2）
- ・ 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・ 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図
書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業
中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書： Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心があ
る人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14：30-16：00)
(総合教育棟 4 階：412)

技術英語 I Technical English I

担当学年：3・4 年次 担当学科：全学科
学期：前期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the
class is also evaluated by the weekly assignments, time spent
on various speaking topics, and email assignments. Extra
credit can be earned through presentations and through the
writing/email assignments. The syllabus provides engineering
topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development,
civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering,
material, general issues

3. 到達目標

The course aim is to help students to develop their speaking,
reading, and writing abilities and to become more familiar
with technical vocabulary, and expressions in their own field
of engineering. The syllabus provides engineering topics for
students in their own field

4. 授業計画

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical Engineers
1. Corrosion	Local Area Network	Fluid Mechanics	Structural Analysis	Electrical Resistance
2. Bonding	Peer-to-Peer Network	Mechatronics	Seismic Engineering	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams	Electric Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Networks	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Optimization	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams
7. Absorption	Software Engineering	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical Chemistry	Computer Architecture	Drafting	Fire Protection Engineering	Voltage
9. Catalysis	Operating Systems	Piping	Geotechnical Engineering	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals and Fittings	Transport Engineering	Microelectronics
11. Chemical Reactors	Artificial Intelligence	Values	Environmental Engineering	Signal Processing
12-14. Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email
assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-
city. Students can choose any factory to visit, such as Toto,
Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards
will be expected to write, in English, on what he or she learned.
Students are highly encouraged to find more information on
the topics above from the Internet and to provide interesting
comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen,
Perceptia Press
ISBN# 4-939130-93-2

8. オフィスアワー等

Monday: 10：00－5：00
Tuesday: 10：00－5：00

総合英語 A II Comprehensive English A II

担当学年：1 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth Steele, Andrew Watt, Adam Stott, Alex Bodnar

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 11 条 2）

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Language to go – Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー等

Mondays, 12.00-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

授業で実践した勉強法を身に付け、今後の自主学習に活用する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 19 Facing the Truth
3. 発表
4. Unit 20 The Pleasure of the Text (1)
5. 発表
6. Unit 21 The Pleasure of the Text (2)
7. 発表
8. Unit 22 The Secrets of the Bedroom (1)
9. 発表
10. Unit 23 The Secrets of the Bedroom (2)
11. 発表
12. Unit 26 From Schoolgirl in China to Epitome of Japan's Culture (1)
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加40%、発表10%、期末試験50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 教科書・参考書

教科書：Global View (朝日出版社)

Listening Partner: An Intermediate Course
(金星堂)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：建設社会工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科・
総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ勉強し、並行して時事英語に関連する分野の英語力、語彙力を高め、社会各方面への関心を高める。社会での実際の使用に耐える英語力になるよう、さらにステップアップさせ、様々な IT を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。

各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい

2. キーワード

国際英語、IT、英語聞き取り法、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の基礎作り。

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法（冠詞）、時事英語
2. 放送英語の聞き取り法（代名詞）、時事英語
3. 放送英語の聞き取り法（前置詞）、時事英語
4. 放送英語の聞き取り法（助動詞・接続詞）、時事英語
5. 放送英語の聞き取り法（リズムによる短縮）、時事英語
6. 放送英語の聞き取り法（母音弱化）、時事英語
7. 放送英語の聞き取り法（リエゾン）、時事英語
8. 放送英語の聞き取り法（語中の t）、時事英語
9. 放送英語の聞き取り法（音声同化）、時事英語
10. 放送英語の聞き取り法（音声同化）、時事英語
11. 放送英語の聞き取り法（子音連鎖 1）、時事英語
12. 放送英語の聞き取り法（子音連鎖 2）、時事英語
13. 放送英語の聞き取り法（慣用語句）、時事英語
14. 放送英語の聞き取り法（語尾発音）、時事英語
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 50%、期末試験を 50% とする。

活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（CD 付き）（三修社）
2. News Digest Beginners (The Japan Times)
3. （参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30 - 4：40。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・応用化学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet ?
4. Are We Grown Up Yet ?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験—60%
- (2) 授業での小テスト—20%
- (3) 授業での発表やレポート—20%

総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

言語科学、文学、異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界的に膾炙している文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニングについては、比較的易しいが長めのものに慣れていく練習を行う。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (1)
3. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (2)
4. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (3)
5. The Arrow of Time by Stephen W. Hawking (4)
6. Ellipsis by Alain de Botton (1)
7. Ellipsis by Alain de Botton (2)
8. Ellipsis by Alain de Botton (3)
9. Review Test 1
10. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (1)
11. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (2)
12. Speak, Memory by Vladimir Nabokov (3)
13. But Is It Language? by Roger Fouts and Stephen Tukul Mills (1)
14. But Is It Language? by Roger Fouts and Stephen Tukul Mills (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験60%、小テスト、授業中の作業など40%。積極的な発表などの参加点を考慮する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：SCOPE (研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限（14：30～16：00）

（総合教育棟 4 階：S412）

総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1 年次

担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニングも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

様々な分野の英語を数多く読み、情報収集ができるようになる。人前で自分の言いたいことを英語・日本語の両方で伝えられるようになる。簡単な英語の話を聞き取れるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点（30%）発表（30%）期末試験（40%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自確認すること。

三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語で自分の意見を形成するには、賛否両論の立場から考えることが有効である。この授業では、現代の諸問題に関する賛否両論を英語で学ぶとともに、自分の意見を英語で伝達する練習を行なう。

2. キーワード

論理的思考力、表現力、スピーチ

3. 到達目標

現代の諸問題について自分の意見を英語で伝達する方法を習得する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Should Cloning Be Allowed?
3. Chapter 2 Do UFOs and Aliens Exist?
4. Chapter 3 Should violence Be Allowed on TV?
5. Chapter 4 Is Cosmetic Surgery OK for Young People?
6. Chapter 5 Should GM Foods Be Banned?
7. Chapter 7 Do Robopets Make Better Pets than Living Pets?
8. Chapter 8 Is the Communicative Approach More Effective?
9. Chapter 9 Should the Prime Minister Be Elected by Direct Popular vote?
10. Chapter 10 Should Japan Be Allowed to Become a Military Power?
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館を利用し、授業で扱うトピックについて自主的に調べたり、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴したりすることを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Yeas and Nays: Current Issues for Debate and Discussion (マクミラン ランゲージハウス)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ勉強し、並行して時事英語に関連する分野の英語力、語彙力を高め、社会各方面への関心を高める。社会での実際の使用に耐える英語力になるよう、さらにステップアップさせ、様々な I T を利用する勉強法や国際感覚を高めるための刺激を与えるようにしたい。

各自の国際度を高めるための方策を一緒に考えたい

2. キーワード

国際英語、I T、英語聞き取り法、時事英語

3. 到達目標

英語マスメディアや IT 英語情報を利用できる英語力の増強。

4. 授業計画

1. 放送英語の聞き取り法 (冠詞)、時事英語
2. 放送英語の聞き取り法 (代名詞)、時事英語
3. 放送英語の聞き取り法 (前置詞)、時事英語
4. 放送英語の聞き取り法 (助動詞・接続詞)、時事英語
5. 放送英語の聞き取り法 (リズムによる短縮)、時事英語
6. 放送英語の聞き取り法 (母音弱化)、時事英語
7. 放送英語の聞き取り法 (リエゾン)、時事英語
8. 放送英語の聞き取り法 (語中の t)、時事英語
9. 放送英語の聞き取り法 (音声同化)、時事英語
10. 放送英語の聞き取り法 (音声同化)、時事英語
11. 放送英語の聞き取り法 (子音連鎖 1)、時事英語
12. 放送英語の聞き取り法 (子音連鎖 2)、時事英語
13. 放送英語の聞き取り法 (慣用語句)、時事英語
14. 放送英語の聞き取り法 (語尾発音)、時事英語
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース英語を聴く（CD 付き）（三修社）
2. News Digest (The Japan Times)
3. (参考書) インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2:30 - 4:00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

科学分野の知的好奇心を刺激する英文を読むことにより英語の総合能力を向上させる。将来科学分野の英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

1. 概要

現代社会を読み解く、評論、コラム、小説、スクリーンプレイ、エッセイ、書評など様々なスタイルの文章にあたることで、英語で現代文化を感じる授業である。同時に読解とリスニング能力の向上を目指す。

2. キーワード

現代文化

3. 到達目標

内容面では、現代文化における、さまざまな局面について英語で理解することが出来ること。また、それに対して批判的な意見を持つことが出来ること、である。技能面では、読解における全体理解ができることと、リスニングにおいて要点理解ができること、である。

4. 授業計画

1. Introduction
2. I AM from a Family of Artists by Kurt Vonnegut
3. Backstroke by Yoko Ogawa
4. Lost Worlds: The Challenge of the Islands by Rachel Carson
5. Why Japanese Succeeded by Jared Diamond
6. Virtual Violence by Ian Buruma
7. The Other America: Poverty in the United States by Michael Harrington
8. Revise Test 1
9. The Lost Voice of Protest by Bob Herbert
10. Akeelah and the Bee by Doug Atchison
11. The Shock of Teapots by Cynthia Ozick
12. Unstrange Minds: Remapping the World of Autism by Roy Richard Grinker
13. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner by James Hogg
14. A Society by Virginia Woolf
15. Revise Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業内での作業を総合して行う。総合評価で60点を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：佐久間みかよ、WISH (研究社)
参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)
Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)
(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次

担当学科：機械知能工学科・電気電子工学科・建設社会工学科・総合システム工学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

4. 授業計画

第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング

第2回 Analysis (1)

第3回 Analysis (2)

第4回 Analysis (3)

第5回 Analysis (4)

第6回 Definition (1)

第7回 Definition (2)

第8回 Definition (3)

第9回 Definition (4)

第10回 Chronological Order (1)

第11回 Chronological Order (2)

第12回 Chronological Order (3)

第13回 Chronological Order (4)

第14回 課題作成

第15回 課題発表

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

自主学習として、図書館の *Japan Times* や、インターネットで週刊 *ST*、*Daily Yomiuri* などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 江口 雅子

1. 概要

本授業は、新聞記事をはじめとして、出典もスタイルも多岐にわたる素材を扱い、上級の学習者が多様な英語に触れるようにする。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力向上のための指標となるような授業にする。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、国際性

3. 到達目標

本授業では、多様な英文に触れながら文化的背景や英語に関する知識を教え、英文の内容を理解する実践力を養うことを到達目標とする。リスニング能力については、毎回生きた素材の英語をテーマごとに繰り返し聞くことにより、まとまりのある談話の概要や内容を適切に把握することを目指す。また、コミュニケーションの現場の実践的リスニング能力を向上させ、自然な応答能力を強化する。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主的学習を期待する。

4. 授業計画

1. Introduction

2. Culture 1 : Move Over, Please

3. Culture 2 : What's So Funny?

4. Culture 3 : All That Jazz

5. Education 1 : Access @ Anywhere

6. Education 2 : Knowing the Score

7. Education 3 : Mind the Gap

8. Health & Social Welfare: A Reason for Living

9. People & Society 1 : A Win-win Situation

10. People & Society 2 : Thinking about Drinking

11. People & Society 3 : What a Character!

12. IT 1 : At Your Fingertips

13. IT 2 : None of Your Business

14. IT 3 : Footnoting the Web

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業出席・発表点50%。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・講義内容の十分な理解を得るために、予習、復習を必須とする。
- ・「今の」英語に触れるため、NHKテレビあるいはラジオの英語語学番組を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Power-Up English <Advanced> (南雲堂)

参考書：リーダーズ英和辞典、リーダーズ・プラス (研究社)

Longman Dictionary of English Language and Culture (文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

Seiko, Sharp, Casio の電子辞書 (英語専用モデル) を勧める。

8. オフィスアワー等

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、難易度の高い英語の読破を目指すと共に、論点を掴む読み方や英語表現の活用を実践する。そのため授業では、文章の構造を踏まえつつ、難解な文章を含んだ英文をたくさん読みこなし、それと共に、英語を読む中でこれから学生自身が使えるような表現を各自が自分のものとできるような取り組みを実践する。

2. キーワード

環境問題、科学、インターネット

3. 到達目標

本授業は、レベルの高い、科学的な内容を含んだ文章を読み、論点を掴むということを実践する。更に、研究論文等で使えるような表現を自主的に纏めるということを実践する予定である。この授業により、「考えながら英語を読む」ということと、「どのように英語の文章が書かれているのか」ということが理解できたかと思っている。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Big Bang — The evolution of the universe
3. Spaceship Earth — How fast are we going?
4. Plate tectonics — Does the Earth move?
5. Global warming — Getting warmer
6. Weather — Everyone's a meteorologist
7. Salinization and desertification — Our impact on the land
8. Telescopes — A closer look
9. Exploring the oceans — The underwater world
10. Antarctica — The frozen continent
11. Instruments of observation — The smaller you get
12. The Global Positioning System — Where am I?
13. The development of life — Explosions and extinctions
14. Human evolution — Our early ancestors
15. 試験

※進度により変更する場合があります。

5. 評価方法・基準

定期試験70%、提出課題30%（予定）。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。この評価基準は現在の予定です。正確な評価基準は第1回目の授業の際に告知します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Our Home the Earth（現代の科学と地球環境）
成美堂

※関連した記事があればその都度配布します。

参考書：※予習には辞書が必要となってきます。

- ・電子辞書（できれば英語専用モデルのもの）があると便利でしょう。
- ・英英辞書（Oxford Advanced Learner's Dictionary 等）も使えると英語学習に役立ちます。

8. オフィスアワー等

オフィスアワー等はありませんが、質問がある場合には、e-mail等で受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 梅田 真理

1. 概要

本授業では、社会問題や海外のトピックについてのリーディング、リスニング、ディスカッション、そしてライティングを通して英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を総合的に向上することを目標とする。授業ではパラグラフ・リーディングとサマリー・ライティングについても学習する。

2. キーワード

社会問題、異文化理解

3. 到達目標

パラグラフ・リーディングを通し、英語のパラグラフ構成を理解し、リーディング能力の向上を目指したい。また、ディスカッションやライティングなど演習を通し、自ら英語で意見を述べることを学んでもらいたい。

4. 授業計画

1. Introduction — Paragraph reading
Chapter 1 : University Lifestyles
2. Chapter 1 : University Lifestyles
3. Chapter 2 : Career Choices
4. Chapter 3 : Telecommuting
5. Chapter 4 : Slow Food
6. Chapter 5 : The Last Art of Conversation
7. Chapter 6 : See You in Cyberspace!
8. Chapter 7 : Love in the Virtual World
9. Chapter 8 : The Wonderful World of English (es)
10. Chapter 9 : The Wisdom of Crowds
11. Chapter 10 : Be a Critical News Consumer
12. Chapter 11 : What's your Carbon Footprint
13. Chapter 12 : Ecotourism
14. Chapter 13 : Authentic Happiness
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（中間・期末）70%、小テスト 20%、サマリー 10%。
総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・リーディング中心ですが、発表やディスカッションも多く取り入れるので、積極的に参加するようにしてください。
- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失います。
- ・内職、携帯電話の使用厳禁。もし違反しているものを見つけたら、退室してもらいます。
- ・教科書を必ず購入すること。購入しない場合は履修資格を失うことになるので、注意してください。

7. 教科書・参考書

教科書：『World in Motion — Life in the 21st Century』（金星堂）

8. オフィスアワー等

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 上村 隆一

1. 概要

高度情報化社会で必要とされる技術系の英文理解につながる読解スキル習得を目指した演習を行う。英文のパラグラフで用いられる主要な構造パターンに着目し、特徴的な論理展開を学習する。1つの構造パターンに対して複数の教材ユニットを用意しており、実用的な読解能力を身につけやすいよう工夫してある。教科書で扱う素材は、情報科学や技術系専門雑誌から得られた知識を基に書き下ろされたもので、語彙レベルも難解になりすぎないよう配慮している。

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

理系学生にとって、各自の専門分野に関する英語文献を読みこなす上で必要とされる論理的な文章構造の把握、読解スキルの向上

4. 授業計画

1. Introduction: Course overview
2. The Uncanny Valley
3. Biotope
4. Church of the Light
5. Energy-efficient Housing
6. Universal Design
7. Living with Robots
8. Still Evolving After All These Tears
9. Choosing and Protecting Passwords
10. Linux
11. Stein Cells — A Miracle Cure?
12. Earth Batteries
13. Predicting Intentions
14. Urban Heat Islands
15. 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（50％）および授業時の小テスト（30％）および授業時課題（20％）

試験・テスト平均が60％を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。オンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のままに理解できるように努力してください。

7. 教科書・参考書

K.Hitomi,H.Yoshida and E.Yubune: *Paragraph Reading:21 World-Changing Innovations* (南雲堂、2008) 授業中に適宜ウェブ上の関連情報を紹介する。

8. オフィスアワー等

特になし。科目担当者への質問等は uemura@env.kitakyu-u.ac.jp までメールでお願いします。（携帯メールは不可。）

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修
 担当教員 坂口 由美

1. 概要

このクラスでは基礎的な会話表現がほぼ身についていると思われる学生を対象に、さまざまな会話の場面で用いられる表現を学び、それを応用し運用できる力をつけることを目標とする。

同時に基本的な英文法も取り入れ、練習問題をするることによってこれまでの知識をさらに確実なものにすることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、国際理解、外国事情、コミュニケーションング リッシュ

3. 到達目標

国際人を目指すために必要な最低限の日常会話ができるようになること、同時にどんな場面に遭遇しても英語を使うことに物怖じしない態度をやしなう。

4. 授業計画

1. 授業計画及び授業内容の紹介
2. 意思
3. 命令
4. 約束
5. 許可
6. 選択
7. 称賛・祝い
8. 心配・喜び・悲しみ
9. 恐怖・怒り・驚き
10. 電話
11. 時間
12. 日付・曜日
13. 年齢
14. 総復習・試験前対応
15. 試験

★ 授業形態は学生を中心とした演習方式で行う。

5. 評価方法・基準

- ・期末試験70％ 出席30％
- ・総合評価で60％以上を合格とする。
- ・期末試験については筆記は行わず、グループでの発表形式とする。
- ・授業中の積極的な発表、無遅刻、無欠席については加算点あり。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・授業全体の3分の2以上の出席がない場合は履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは減点、除名もあり。
- ・辞書必携
- ・予習・復習は必須。特に復習についてはその日に学習した表現を繰り返し練習し、暗記することで表現力アップにつながる。
- ・TV・DVD・映画等を利用し、英語圏の文化や日常会話表現などに親しんでおくことで授業がより理解しやすくなる。

7. 教科書・参考書

Enjoy Speaking (Asahi Press)

8. オフィスアワー等

メールアドレス

yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 熊谷 美佐子

1 概要

この授業ではリーディングスキルや語彙の強化を図る。内容について考えたことを英語で述べる、議論する、書いて纏める練習も行う。

2. キーワード

Reading comprehension, Reading skills, Oral presentation, Writing skills.

3. 到達目標

様々なトピックについて程度のスピードを持って読み、理解し、その内容についての考えを英語で、口頭あるいは書いて表すことが出来る。

4. 授業計画

1. Crime and Punishment
2. Crime and Punishment
3. (Speaking & Writing)
4. Immigration
5. Immigration
6. (Speaking & Writing)
7. Marriage
8. Marriage
9. (Speaking & Writing)
10. Gender Issues
11. Gender Issues
12. (Speaking & Writing)
13. Sanity
14. Sanity
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (30%)、中間試験 (20%)、クイズ・課題 (30%)、授業への積極的参加 (20%)。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 以上の出席がないと履修資格を失う。

予習・復習を必ず行う。

7. 教科書・参考書

Hot Topics (3) [Cengage Learning]

8. オフィスアワー等

メールアドレス：Kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

件名欄に氏名と学生番号を書いて下さい。

総合英語 C II Comprehensive English C II

担当学年：2 年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 香子

1 概要

世界および日本で議論されている数々の問題は、耳にすることは多くても、共に熟考し、話し合うチャンスは意外と少ない。そのようなトピックを今一度英字新聞等の抜粋で読み、それに対してどのような意見を持つか、それはなぜかなどを共に考えることで情報分析能力を高め、同時に時事問題を理解し、英語で語り合うための読解力・リスニング力・表現力などの英語の技能を養うことが本課目の目的である。

2. キーワード

カルチャラル・リテラシー、社会（国際）問題、情報分析、判断力養成

3. 到達目標

ある程度長さがある英文を読み、系統立てて理解する能力を養う。また、リスニング力、アクティビティを通してその中に出てくる英語表現を口頭・文章で活用する力を伸ばす。読解後の各々の分析と意見も到達の目安とする。最終的には、英語を異質な「記号」として捉えず、情報を得るためのソースとして活用できるようにしたい。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Ishigaki: A Model for Japan
3. Confronting Marital Violence Behind the Shoji Screen
4. Cultural exchange is a form of national security
5. Japan must lead way in conservation and recycling
6. Lawmakers turned off by bureaucrats' birth-promotion moves
7. Everything under the sun at Tokyo lost-and-found
8. The tragedy of the world's child soldiers
9. Americans and Guns
10. Muslim Mind, Female Body
11. Iranian Director scoffs at scandal, focuses on Afghan misery
12. Police Moves on L.A. Teen Not 'Reasonable' — Excerpt
13. The bombs that keep on killing
14. まとめ
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験60%、アクティビティ・小テストなど授業中の活動40%。授業での積極的発表を参加点として考慮する（逆の場合点がマイナスされることもある）。総合評価で60%以上が合格となる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業の予習・準備はもちろん、復習・テストの準備など、授業に有効な活動は自主的に行うこと。（評価の対象にもなる）
- ・授業中に社会人としてのマナーを守る事も必須。大幅な遅刻は欠席とみなし、授業態度が悪質な場合は除名する。みなで気持ちよく学習できる環境を作る態度が最も望ましい。

7. 教科書・参考書

日本と世界の情勢を知る 12 の記事ーリーディングとリスニング (金星堂)

プリント 他

8. オフィスアワー等

質問等は授業前後に受け付ける。

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
- 2) To deepen their understanding of current events in the world

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：*Language to go* - Intermediate (Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality / quantity / size / shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes).

4. 授業計画

	Language Function	Topic 1	Topic 2	Topic 3
Week 1	Explaining One's Area of Engineering	Sub-disciplines	Areas of Interest	Problems and Solutions
Week 2	Explaining Measurements, Shapes, Sizes	Gas Turbines	Surveying	Euclidean Transformation
Week 3	Explaining Processes	Heat Transfer	Distillation Processes	Signal Processing
Week 4	Explaining Changes and Innovations	Polymers and Plastics	Refrigeration	Solar Energy
Week 5	Explaining Functions	Transformers	Lasers	Combustion Engine
Week 6	Explaining Kinds, Categories, and Types	Corrosion	Soil Erosion	Bridges
Week 7	Explaining Advantages	Urban Analysis	Pneumatics	Seismic Engineering
Week 8	Explaining Objectives and Reasons	Electrical Resistance	Structural Design / Analysis	Process Design
Week 9	Explaining Outcomes	Image Processing	River Channelization	Electromagnetism
Week 10	Explaining Principles, Laws, Concepts	Control Theory	Conservation of Mass	The Laws of Thermodynamics
Week 11	Explaining Aspects and Features	High Definition TV	Water Purification	Hydraulic Engineering
Week 12	Explaining Famous Projects	Environmental Engineering	Tunnels	Highways
Week 13	Explaining Important Innovations	Electric Light	Refrigeration	Maglev Train
Week 14	Explaining Properties of Materials	Metals	Ceramics	Plastics
Week 15	Exam	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering
Robert Long. Lulu Press.

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
Tuesday: 10:00 - 5:00

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：全年次 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

主体的な英語学習態度を身に付ける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Cell Phones
3. Unit 4 Vending Machines in Japan
4. Unit 6 The Global Economy
5. Unit 9 Food Miles
6. Unit 11 Getting Richer, Getting Poorer
7. Unit 12 United Nations Millennium Development Goals
8. Unit 15 The Green Belt Movement
9. Unit 16 The “New” JICA
10. Unit 18 Safe Driving
11. Unit 19 The Keys to Happiness
12. まとめ
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やAVブース、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Life in Our Global Village (三修社)

8. オフィスアワー等

研究室前に掲示。

中級英語Ⅱ Intermediate English Ⅱ

担当学年：1 年次以上 担当学科：全学科

学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

主体的な学習を多く行い、英語運用能力と積極性を高めることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 Uluru-Kata Tjuta National Park
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Historic Center of Brugge
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 La Grand-Place Brussels
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Archaeological Areas of Pompeii
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Church and Dominican Convent of Santa Maria
- 第11回 スピーチと議論 delle Grazie
- 第12回 スピーチと読解 Alhambra, Granada
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 Acropolis, Athens
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

辞書を持参すること。

授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Setsuko Watanabe, Wonders of the World on the Web. Nanundo, 2006.

辞書

8. オフィスアワー等

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 A II Advanced English A II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- To make students feel more confident about using English for communication.

4. 授業計画

16. Introductions
17. Contact
18. Two cities
19. Round the clock
20. Person to person
21. Positive thinking
22. Money talks
23. Unlucky for some
24. Taxi!
25. Major events
26. Street life
27. Gun crazy
28. Difficult situations
29. Revision
30. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- prepare thoroughly for class
- do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
 参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A II Advanced English A II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech. The focus is on topics from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also given weekly in order to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

4. 授業計画

Week	Topics	Interaction	Grammatical focus
1.	Family	Pair work	Asking Questions
2.	Beauty	Pair work	Assertions and Disclaimers
3.	Discipline	Pair work	Comments and Reflections
4.	Expertise	Surveys	Comparisons and Suggestions
5.	Individualism	Surveys	Observation and Criticism
6.	Entertainment	Surveys	Preferences and Recommendations
7.	Obligation	Group work	Explanations and Excuses
8.	Sports	Group work	Comparisons / Complaints
9.	Equality	Group work	Opinions and Rationalizations
10.	Power	Debates	Claims and Conjectures
11.	Dependence	Debates	Descriptions and Testimonies
12.	Discipline	Debates	Choices and Judgments
13.	Review	Paired discussions	All Previous forms
14.	Reviews	Paired discussions	All Previous forms

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Speeches: Extra Credit Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner about some cultural theme that he or she is interested in, and to provide a report of the interviewee's most interesting answers.

7. 教科書・参考書

Culture Compass Lulu Press ISBN 1-4116-4484-0 Robert Long

8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00
 Tuesday: 10:00 - 5:00

上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：(1)・2・3・4 年次 担当学科：全学科
 学期：後期 単位数：1 単位 必修・選択の別：選択
 担当教員 村田 忠男

1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパ等海外に行こうという気になるよう仕向けたい。英語発表能力の訓練を重視する。

2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

3. 到達目標

1 年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパ等海外を闊歩するための基礎訓練コースとしたい。EU のみならず殆どの国が今や英語だけで歩ける。

4. 授業計画

1. ヨーロッパの女性
2. ヨーロッパの家族
3. ヨーロッパの健康
4. クリスマス
5. 迷信
6. 個性の重要性
7. ヨーロッパの教育
8. 社会行事
9. ヨーロッパの移民
10. ヨーロッパの今後
11. インターネット情報交換（1）
12. インターネット情報交換（2）
13. インターネット情報交換（3）
14. インターネット情報交換（4）
15. 試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。
 活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから海外旅行してみたい学生の受講を薦める。

英語で情報や意見の交換をできるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。予習しない学生は参加不可。

7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture
 （成美堂）
- 2.（参考書）インターネット接続したパソコン

8. オフィスアワー等

基本的には月曜 2：30 - 4：00。
 講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。
 murata@dhs.kyutech.ac.jp で、面接予約を事前にとることも可能。

上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：(1)・2・3・4 年次
 担当学科：全学科 学期：後期 単位数：1 単位
 必修・選択の別：選択
 担当教員 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行なう。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーションできるレベルにまで英語能力を上げる。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8 割程度、またその延長線上にある presentation に 2 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・30%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等
 ...50%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）
 火曜日 4 限（14：30-16：00）
 （総合教育棟 4 階：412）

上級英語 C II Advanced English C II

担当学年： 3 ・ 4 年次 担当学科：全学科
学期：後期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。
具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づく
ディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文など
である。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション
能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと
自分の意見が示せることが出来るようになることが目標であ
る。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的
思考なども学ぶことを目指す。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験30%、平常点70%。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

- ・ 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条
2）
- ・ 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・ 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図
書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業
中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書： Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心があ
る人に）

8. オフィスアワー等

火曜日 4 限 (14:30-16:00)
(総合教育棟 4 階：412)

技術英語 II Technical English II

担当学年：3・4 年次 担当学科：全学科
学期：後期 単位数： 1 単位 必修・選択の別：選択
担当教員 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the
class is also evaluated by the weekly assignments, time spent
on various speaking topics, and email assignments. Extra
credit can be earned through presentations and through the
writing/email assignments. The syllabus provides engineering
topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development,
civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering,
material, general issues

3. 到達目標

The course aim is to help students to develop their speaking,
reading, and writing abilities and to become more familiar
with technical vocabulary, and expressions in their own field
of engineering. The syllabus provides engineering topics for
students in their own field

4. 授業計画

Chemical Engineers	Network Engineers	Mechanical Engineers	Civil Engineers	Electrical Engineers
1. Thermodynamics	Programming Paradigm	Aerospace engineering	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Ionising radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	TRIAC
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Gravitational erosion	Thermionic emissions
5. Biochemical Engineering	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Management	High Definition TV
6. Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam	Reviews / Exam
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Pollution Controls: Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage Water Systems	Transmission Lines
10. Polymers	Theories of Computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse Engineering	Refrigeration	Hazardous Waste Management	Programmable Logic Controllers
12.-14. Reviews and Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams	Reviews / Exams

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email
assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-
city. Students can choose any factory to visit, such as Toto,
Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards
will be expected to write, in English, on what he or she learned.
Students are highly encouraged to find more information on
the topics above from the Internet and to provide interesting
comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press

8. オフィスアワー等

Monday: 10 : 00 - 5 : 00
Tuesday: 10 : 00 - 5 : 00

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母(国)語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性(真の国際性の養成)

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ることが、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目(各1単位)がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語 AI」(前期)、「基礎ドイツ語 A II」(後期)、「基礎ドイツ語 B」(前期又は後期)が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語 AI」(前期)、「基礎中国語 A II」(後期)、「基礎中国語 B」(後期)が必修となる。

4月に「基礎ドイツ語 AI」又は「基礎中国語 AI」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更出来ない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語 AI」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語 A II」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を必修科目として履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することが出来る。

【ドイツ語を学ぶ意義】

(1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義をあるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

(2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

(3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

(ア) 多元的社会の創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺の諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会を実現している。

EU は国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会を目指している。ドイツは EU の中心的な役割を担っており、多元的社会の創造に寄与している。

(イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

(ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

(エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアドラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡ることのできるスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】 基礎ドイツ語 A I（前期 1 単位）、
基礎ドイツ語 A II（後期 1 単位）
基礎ドイツ語 B（前・後期 1 単位）
- 【選択】 選択ドイツ語 A（前・後期 1 単位）
選択ドイツ語 B I（前期 1 単位）
選択ドイツ語 B II（後期 1 単位）
選択ドイツ語 C I（前期 1 単位）
選択ドイツ語 C II（後期 1 単位）

1. ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってものを考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A IIにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
2. 基礎ドイツ語 B においては、『母(国)語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化とともっとも直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 B においては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語 A も併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 A において目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 B の発展である。
3. 選択ドイツ語 B I・B II においては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。
- いづれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。
4. 選択ドイツ語 C I・C II においては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

【履修上の注意点】

- (1) 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。
- (2) 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C II を積極的に受講することが望ましい。

※再履修に関して

- (1) 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。
- (2) 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
- (3) 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能工学科 第 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持っていく。

4. 授業計画

教科書は 15 課からなっているが、第 7 課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明＋練習」、「練習問題」という構成である。授業では 2 回に 1 課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1 回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書:尾川浩/江代修/金関猛著「ドイツ文法 15 課」(三修社)

独和辞典:第 1 回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後 2 時から午後 6 時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟 3 階東側 313。

E-mail:imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：成田節「練習で覚える ドイツ語初級文法」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

機械知能工学科・建設社会工学科

第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他：改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

建設社会工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {1} テーマ：あいさつ（1）／人と知り合う／紹介（名前・出身地・居住地・職業・趣味）
文法：人称代名詞／動詞の現在人称変化（規則動詞，sein）／疑問文の種類と答え方／疑問詞
- {2} テーマ：時刻／あいさつ（2）／時を表す表現（1）／人を誘う／アドレスとケータイ番号を尋ねる／食べ物と飲み物／メール
文法：動詞の現在人称変化（haben，不規則動詞）／ドイツ語の語順（定動詞第2位の原則，疑問文の語順）
- {3} テーマ：道を尋ね方・答え方／位置・方向を表す語／建物など／～してください／持ってる？ 持っていない？
文法：duとSie／命令形／名詞の性／定冠詞と不定冠詞／冠詞と名詞の格変化（1・4格）／否定冠詞（1・4格）／所有冠詞（1・4格）
- {4} テーマ：買い物／値段／プレゼント／気に入った？／家族・親戚
文法：名詞と冠詞の3格／複数形／人称代名詞の格変化／前置詞（1）／否定の語を含む疑問文とその答え方
- {5} テーマ：週末や休暇の予定／天候／一日の行動・日常生活
文法：分離動詞／前置詞と定冠詞の融合形／話法の助動詞／非人称のes／日常生活で使う分離動詞／分離動詞に似た使い方をする表現／形容詞

* 上記の各ユニット {1} ～ {5} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕飯田／江口：アプファールト スキットで学ぶドイツ語（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {0} 発音 Stufe 1
- {1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
発音 Stufe 2
- {2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位／否定の語nicht
- {3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／名詞の複数形／否定冠詞kein
- {4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞
* 上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他:改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

電気電子工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち

・動詞の現在人称変化

・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方

——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態

・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅠの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川／江代「CD付き ドイツ文法15課」（三修社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

応用化学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方
- zu 不定詞
- 受動態
- 関係代名詞
- 接続法 など。

基礎ドイツ語AⅠの授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：春日 / 松澤「怖くはないぞドイツ文法」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

応用化学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語AⅡ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語AⅡ」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持っていく。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩 / 江代修 / 金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

マテリアル工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化(1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化(2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

総合システム工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語AⅡ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

後期の「基礎ドイツ語AⅡ」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail:imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語AⅠ」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail:imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

機械知能工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方 ●zu 不定詞 ●受動態
- 関係代名詞 ●接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：成田節「練習で覚える ドイツ語初級文法」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

機械知能工学科・建設社会工学科

第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につなげる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他：改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

建設社会工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {6} テーマ：過去のできごと（1）／時を表す表現（2）
文法：過去分詞／現在完了
- {7} テーマ：過去のできごと（2）／位置の表現／～がある／遅刻／メルヘン
文法：過去基本形／過去時制／前置詞（2）／es gibt…
- {8} テーマ：修理／家事／開店時間・閉店時間／料理／比較の表現
文法：受動文／再帰代名詞と再帰動詞／比較級・最上級
- {9} テーマ：ふたつの文をひとつにする／病気／色
文法：zu不定詞句／従属の接続詞と副文
- {10} テーマ：非現実の仮定
文法：接続法2式（非現実語法）
- *上記の各ユニット {6} ～ {10} で取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕飯田／江口：アプファールト スキットで学ぶドイツ語（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
- {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
- {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
- {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
- {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞
- *上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在（1）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2）

動詞の現在（3）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

ローデリヒ・ガートゲ他:改訂・ドイツ文法の森（CD付き）（第三書房）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気電子工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち

・動詞の現在人称変化

・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方

——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態

・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2)、(3) の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川／江代「CD 付き ドイツ文法 15 課」（三修社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

応用化学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようになる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- 関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2),(3)の内容を学習する。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：春日／松澤「怖くはないぞドイツ文法」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

応用化学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたと、き、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語AⅠ」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持って行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語 A I」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

マテリアル工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化(1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化(2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

総合システム工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、ということまで持つて行く。

4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、前期に第7課まで進む予定なので、第8課から始める。各課は、「基本例文」、「文法事項の説明+練習」、「練習問題」という構成である。授業では1～2回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価方法・基準

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：尾川浩／江代修／金関猛著「ドイツ文法15課」(三修社)

独和辞典：「基礎ドイツ語 A I」で使ったもの

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。個人研究室は総合教育棟3階東側313。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科

第2年次 前期 木曜3限 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「希望のドイツ語新訂版 —C D 付—」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能・建設社会 第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 導入 アルファベット・発音練習

第2回 Lektion 1 動詞の人称変化

第3回 Lektion 2 //

第4回 Lektion 3 語順

第5回 Lektion 3 副文・接続詞

第6回 Lektion 4 前置詞

第7回 Lektion 5 //

第8回 Lektion 5 不規則動詞

第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化

第10回 Lektion 6 //

第11回 Lektion 7 形容詞の格変化

第12回 Lektion 7 //

第13回 Lektion 8 再帰代名詞

第14回 Lektion 9 分離動詞

第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『身につくドイツ文法 Vers.2』
(Deutsche Grammatik)

【著者名】前田良三 他 著

【出版社】郁文堂

【価格】2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科

第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 Lektion 10 語法の助動詞

第2回 Lektion 10 //

第3回 Lektion 11 過去形

第4回 Lektion 11 現在完了形

第5回 Lektion 11 //

第6回 Lektion 12 受動態

第7回 Lektion 13 比較

第8回 Lektion 13 //

第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト

第10回 Lektion 14 // まとめ小テスト

第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト

第12回 Lektion 15 // まとめ小テスト

第13回 まとめ演習 まとめ小テスト

第14回 まとめ演習 まとめ小テスト

第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『身につくドイツ語 Vers.2』(Deutsche Grammatik)

【著者名】前田良三 他 著

【出版社】郁文堂

【価格】2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

建設社会工学科 第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

おはようございます

タナカマコトと申します

何をしていますの？

その帽子はいくらですか？

コーヒーが一杯欲しい

こちらザビーネです

何を注文する？

市庁舎へはどう行ったらいいのですか？

歩いてホテルまで行くことができますか？

その列車は何時に発車しますか？

音楽に興味があります

とてもよかった！

おいしかった！

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション（新訂版）（朝日出版社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能+建設社会の前半の希望者

第2年次 前期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書 参考書

教科書：須澤通他著「体験するドイツ語 Machen wir weiter」
（郁文堂）

参考書：授業中に適宜配布

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 前期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 integriert (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科、建設社会工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置づけ

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単に必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。平易な文章を辞書を使いながら正確に読める。

4. 授業計画

教科書はCD付きで12課からなっており、会話練習が主体となっている。教科書は大事な部分を選択して使う。さらに、読解力を補うためプリントを用意する。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法・基準

期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：佐藤修子他：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」(三修社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20％程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他:はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

第1回 Lektion 10 語法の助動詞

第2回 Lektion 10 ”

第3回 Lektion 11 過去形

第4回 Lektion 11 現在完了形

第5回 Lektion 11 ”

第6回 Lektion 12 受動態

第7回 Lektion 13 比較

第8回 Lektion 13 ”

第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト

第10回 Lektion 14 ” まとめ小テスト

第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト

第12回 Lektion 15 ” まとめ小テスト

第13回 まとめ演習 まとめ小テスト

第14回 まとめ演習 まとめ小テスト

第15回 （試験）

5. 評価方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『ドイツ文法 型から型へ』

(Von der Form zum Text)

【著者名】荻野蔵平 他 著

【出版社】朝日出版社

【価格】2300円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著

同学社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

電気電子の希望者 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書 参考書

教科書：須澤通他著「体験するドイツ語 Machen wir weiter」
(郁文堂)

参考書：授業中に適宜配布

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科 第2年次 後期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置づけ

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようにする。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツ語使えるドイツ語表現（三訂版）
(三修社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科・マテリアル工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 //
- 第3回 Lektion 11 過去形
- 第4回 Lektion 11 現在完了形
- 第5回 Lektion 11 //
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 //
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 14 // まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 // まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験 (40%) および小テスト (60%) で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『ドイツ文法 型から型へ』
(Von der Form zum Text)
- 【著者名】荻野蔵平 他 著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価 格】2300円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同書社 4200円

8. オフィスアワー等

基礎ドイツ語 B Basic German B

マテリアル工学科 第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

簡単で必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。平易な文章を辞書を使いながら正確に読める。

4. 授業計画

教科書はCD付きで12課からなっており、会話練習が主体となっている。教科書は大事な部分を選択して使う。さらに、読解力を補うためプリントを用意する。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやること。

5. 評価方法・基準

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

- 教科書：佐藤修子他：「スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」(三修社)
- 独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

応用化学科、マテリアル工学科
第2年次 後期 選択必修 1単位
担当教員 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する应用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、应用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
- 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
- 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
- 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
- 第5回 中間まとめ
- 第6回 人を紹介する
- 第7回 数字や略語
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 勉強と語学学習
- 第10回 様々な国とその言語・人
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 趣味、興味
- 第13回 趣味、興味（続き）
- 第14回 中間まとめ
- 第15回 期末試験（後述）

5. 評価方法・基準

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書 など

- 教科書：Szenen 1 integriert（三修社）
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. 面会時間

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

マテリアル工学科 第2年次 後期 木曜2限 選択必修 1単位
担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置づけ

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- 動詞の現在人称変化
- 名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- 英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- 前置詞、形容詞・副詞の用法
- ドイツ語文の大原則その2——副文
- 動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- 比較の仕方
- zu 不定詞
- 受動態
- 関係代名詞
- 接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツ こころの旅」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

総合システム工学科

第2年次 後期 木曜3限 選択必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

・授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

・授業の目的

基礎ドイツ語 A で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

・授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツってこんな国！[CD付]ロマンチックドイツから福祉・共生・不作為まで」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

選択ドイツ語 A Elective German A

全学科 第1年次 後期 火曜4限 選択 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

・授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

・授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

・授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

生活のさまざまな場面に応じたビデオ教材を用い、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

ビデオを参考にしながらドイツ語の文章に慣れ、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。

5. 評価方法・基準

毎回の課題作成により評価し、60%以上を合格とする。授業への参加度が評価のプラスポイントとなる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

学生諸君の積極的な授業参加を期待する。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間

(ビデオ教材 恋するベルリン) DVD つき」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途揭示する。

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第1年次 後期 選択 1単位
担当教員 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的文法知識を踏まえて、一定のテーマを持った比較的簡単なドイツ語文を読む訓練をする。辞書を使いながら一貫した文脈のあるドイツ語文を読む技術を身につけるのがこの授業の目標である。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 1
- 第2回 Lektion 2
- 第3回 Lektion 3 名詞の性について
- 第4回 Lektion 4
- 第5回 Lektion 5 再帰代名詞
- 第6回 Lektion 6
- 第7回 Lektion 7 分離動詞
- 第8回 Lektion 7 動詞の過去形・過去分詞形
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12 関係詞・受動態
- 第14回 Lektion 12 接続法
- 第15回 (試験)

5. 評価方法・基準

定期試験(40%)および小テスト(60%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『オクティ ドイツへ行く』
(OKTI GEHT NACH DEUTSCHLAND)
- 【著者名】マリオン ゼッテコルン、他著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価 格】2400円

8. オフィスアワー等

選択ドイツ語A Elective German A

全学科 第2年次 前期 選択 1単位
担当教員 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解し発展させる。

●授業の位置付け

基礎ドイツ語Aで修得したドイツ語の基礎を発展させ、次の段階のドイツ語へつなげる学力を養成する。

2. キーワード

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

3. 到達目標

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に習熟する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う(第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

- おはようございます
- タナカマコトと申します
- 何をしているの?
- その帽子はいくらですか?
- コーヒーが一杯欲しい
- こちらザビーネです
- 何を注文する?
- 市庁舎へはどう行ったらいいのですか?
- 歩いてホテルまで行くことができますか?
- その列車は何時に発車しますか?
- 音楽に興味があります
- とてもよかった!
- おいしかった!

5. 評価方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション(新訂版)(朝日出版社)

8. オフィスアワー等

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

選択ドイツ語 A Elective German A

全学 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

・授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

・授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

・授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語1 A（新訂版）」朝日出版社

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

選択ドイツ語 A Elective German A

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

1. 概要

・授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

・授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

・授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

日常会話及び旅行などで使う一般的な会話力を目指す。

文章の読み書きがある程度出来る。

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価方法 基準

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

小塩節「新しいドイツ語1 A（新訂版）」朝日出版社

8. オフィスアワー等

授業時間の前後

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

機械知能・建設社会 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)声調、単母音・複母音
- 第3回 発音(2)鼻母音、子音
- 第4回 発音(3)子音
- 第5回 発音(4)綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

電気電子・総合システム 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音(1)声調、単母音・複母音
- 第3回 発音(2)鼻母音、子音
- 第4回 発音(3)子音
- 第5回 発音(4)綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

応用化学科、マテリアル工学科 1 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

機械知能・建設社会 1 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 9 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 10 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 11 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 12 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 第 13 課
- 第 11 回 ポイント
- 第 12 回 復習
- 第 13 回 第 14 課
- 第 14 回 復習
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

電気電子・総合システム 1 年次 後期 選択必修 1 単位
担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

4. 授業計画

第1回 復習
第2回 第9課
第3回 復習
第4回 第10課
第5回 復習
第6回 第11課
第7回 復習
第8回 第12課
第9回 復習
第10回 第13課
第11回 ポイント
第12回 復習
第13回 第14課
第14回 復習
第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2／3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

応用化学科、マテリアル工学科 1 年次 後期 選択必修 1 単位
担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

普通話の正確な発音、初級会話のヒアリング力。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 把 構文
3. テキスト第十二課 禁止表現
4. テキスト第十三課 的の表現
5. テキスト第十四課 経験文
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 値段の表現①
8. テキスト第十五課 値段の表現②
9. テキスト第十六課 存現文①
10. テキスト第十六課 存現文②
11. テキスト第十七課 受身文①
12. テキスト第十七課 受身文②
13. テキスト第十八課 使役文
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2／3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

機械知能・建設社会 2 年次 前期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 12 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 13 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 14 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 15 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 中間試験
- 第 11 回 プリント
- 第 12 回 プリント
- 第 13 回 プリント
- 第 14 回 プリント
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：1 冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

電気電子・総合システム 2 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 1 2 課
- 第 3 回 復習
- 第 4 回 第 1 3 課
- 第 5 回 復習
- 第 6 回 第 1 4 課
- 第 7 回 復習
- 第 8 回 第 1 5 課
- 第 9 回 復習
- 第 10 回 中間試験
- 第 11 回 プリント
- 第 12 回 プリント
- 第 13 回 プリント
- 第 14 回 プリント
- 第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：1 冊めの中国語《会話クラス》 劉穎・喜多山幸子・松山かの子 白水社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

応用化学・マテリアル 2 年次 後期 選択必修 1 単位

担当教員：一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

1 年次に学んだ基礎中国語 A の授業を基礎として、更に進んだ表現などを学ぶ。

4. 授業計画

第 1 回 (全ての授業計画については、第 1 回の授業時に告知する)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 試験

5. 評価方法・基準

期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

テキストは、NHK の中国語会話テキストを使用するので、毎月買い忘れの無いように。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：NHK テレビ テレビで中国語 NHK 出版

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語 A Chinese A

2 年次 前期 選択 1 単位

担当教員 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

発音を正確にマスターする

基礎的な文法をマスターする

基本的な会話ができるようにする

中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習

2. 第 1 課 疑問文の様々なタイプ

3. 第 2 課 比較の表現

4. 第 3 課 時間量・主述述語文

5. 第 4 課 「了」の併用

6. 第 5 課 様態補語

7. 第 6 課 「一点」と「有点」

8. 第 7 課 「不」と「没」

9. 第 8 課 「会」の使い方・「是～的」①

10. 第 9 課 前置詞 (介詞) ①

11. 第 10 課 疑問詞「多」

12. 第 11 課 「能」の使い方

13. 第 12 課 「可以」の使い方

14. 第 13 課 「会」の使い方②・「能」の使い方②

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意点、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『ドリル付 着実にまなぶ中国語 基礎固め編』(讃井 唯允著 朝日出版社)

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

選択中国語 B I Elektive Chinese B I

全学科 2 年次 前期 選択 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

外国語としての中国語を習得する。文字表現として漢字を使うが、源と支流では大差あり。差異をみつけることで学習を進める。発音は、日本語の音読みと全く異なるのでゼロからの出発。中国語の流れるような音に慣れれば、練習を重ねるだけで必ず上達する。

2. キーワード

継続は力なり。

3. 到達目標

正しい声調・標準語の発音

4. 授業計画

1. レベルテスト
2. 発音の基礎のチェック
3. 単語力のチェック
4. テキスト第一章 リスニング練習
5. テキスト第一章 文法問題①
6. テキスト第一章 文法問題②
7. テキスト第二章 声調
8. テキスト第二章 ピンイン
9. テキスト第二章 文法問題①
10. テキスト第二章 文法問題②
11. テキスト第二章 構文
12. テキスト第二章 作文
13. 模擬試験①
14. 模擬試験②
15. 定期考査

5. 評価方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須

7. 教科書

「中検 4 級練習長」（光生館）

8. オフィスアワー等

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

選択中国語 B II Elektive Chinese B II

全学科 2 年次 後期 選択 1 単位

担当教員 板谷 秀子

1. 概要

中国語初級を履修した学生を対象に中検 4 級合格圏へと実力をつけていく。発音・文法・ヒアリングの模擬問題を解きながら基礎力を確認する。

2. キーワード

継続は力なり

3. 到達目標

基礎力の完成

4. 授業計画

- 1 ～ 13 問題集各課
14. 模擬試験
15. 定期考査

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中検 4 級問題集」（光生館）

8. オフィスアワー等

E-mail : xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

選択中国語 B II Chinese B II

2 年次 後期 選択 1 単位

担当教員 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、聴き取りの練習を中心に、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

音を正確にマスターする

基礎的な文法をマスターする

簡単な中国語を聴き取れるようになる

中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス
2. 第1課 あいさつ 1
3. 第2課 あいさつ 2
4. 第3課 教室用語
5. 第4課 数字
6. 第5課 数字と量詞
7. 第6課 金額と買い物
8. 第7課 両替
9. 第8課 時間
10. 第9課 数字関連まとめ
11. 第10課 場所と位置
12. 第11課 道をたずねる 1
13. 第12課 道をたずねる 2
14. 第13課 道をたずねる 3
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意点、授業時間外における学習等

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語 リスニング道場』（朝日出版社 遠藤雅裕・陳淑梅・柴森著）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー等

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

ロシア語AⅠ Russian AⅠ

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
 - 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
 - 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
 - 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
 - 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
 - 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
 - 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
(名詞の単数と複数)
 - 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
 - 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
(動詞の人称変化形)
 - 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
 - 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
 - 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
 - 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
 - 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 前学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

ロシア語AⅡ Russian AⅡ

全学 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

前学期末試験

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
 - 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
 - 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
 - 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
 - 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
 - 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
 - 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
 - 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
 - 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
 - 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
 - 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
 - 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
 - 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 - 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
 - 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 後学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

選択韓国（朝鮮）語 A I Elective Korean A I

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

1. 講義概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。

この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語」中国書店

（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

8. オフィスアワー等

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

選択韓国（朝鮮）語 A II Elective Korean A II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

1. 講義概要

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

5. 評価方法・基準：

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー等

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

I. 「保健体育系」の目的・目標

1. 身体や身体活動 (Muscular Activity) についての科学的思考能力の育成
2. 健康 (度) や体力 (フィットネス) の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯学習 (スポーツ) への橋渡し

II. 保健体育系における授業の方向性

保健体育のスポーツを通じた教授学習過程におけるシーケンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動 (スポーツ種目) 強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間 (継続、実施)
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量 (強度 x 時間)
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

III. 保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目：保健体育
2. 人間科学副専門科目：健康スポーツ科学論、応用スポーツコース (I および II)
- I. 「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面をここでは取り扱う。
3. リレー講義科目：「環境適応論」、「スポーツ・武道文化論」
上記の実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるよう検討している。また、B. 副専門科目の「応用スポーツコース」において、「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験の実施をできるよう構想している。

保健体育 A Practice of Health and Physical Education

全学科 第1年次 前期 必修 1単位

担当教員 橋本 年一・鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進 (health promotion) の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育 (スポーツ) 活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力 (Physical Fitness) 増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして (あるいは身体運動に関する) 学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動

身体のトレーニング

体力＝健康度の向上

運動技能・技術学習

協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極的継続性」、すなわち、全授業に出席し、課題を学習することができる。
- 2) 各自選択したスポーツ・運動技能の向上を図る。初期と比較して上達・向上する。
- 3) 競技ルールを習得すると共に、スポーツ活動への参加や観戦のマナーを学習し、望ましい行動ができるようになる。

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー等

毎週水曜日15時～17時 (橋本)

毎週月曜日の6時限目 (16:30～18:00) (鳥井)

保健体育 B Practice of Health and Physical Education

全学科 第1年次 後期 必修 1単位

担当教員 橋本 年一・鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進 (health promotion) の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をととして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育 (スポーツ) 活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力 (Physical Fitness) 増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をととして (あるいは身体運動に関する) 学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動

身体トレーニング

体力＝健康度の向上

運動技能・技術学習

協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極的継続性」、すなわち、全授業に出席し、課題を学習することができる。
- 2) 各自選択したスポーツ・運動技能の向上を図る。初期と比較して上達・向上する。
- 3) 競技ルールを習得すると共に、スポーツ活動への参加や観戦のマナーを学習し、望ましい行動ができるようにする。

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. “ ”
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

保健体育・B (後期) に関しては、木曜5時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー等

毎週水曜日15時～17時 (橋本)

健康スポーツ科学論

(運動処方論、Exercise Prescription)

全学科 第2、3、4年次

後期 選択 2単位

担当教員 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」(これまでの「いわゆる「成人病」)の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本的事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能

身体トレーニング

体力＝健康度の向上

生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日的な健康の概念を理解する。
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識を習得する。
- 3) 運動処方や身体トレーニングの実施によって上記の「生活習慣病」危険因子の軽減することを理解する。

4. 講義計画

- 1) 現代生活と健康ーその1 寿命と疾病構造の変遷、
- 2) その2 生活習慣病の出現
- 3) その3 食事と運動と休息・休養 (睡眠) の関連
- 4) 「体力」概念?行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果-運動・スポーツに関する生理学的基礎 (総論)
- 6) a. 筋、神経系、
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力 (心・血管系) に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際 (総論) 運動処方分野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック (運動実施のための健康診断)、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その1、その2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価方法・基準

末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義2～3回に1回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター (編) スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康 (新書版) 岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780-I/I-18/2
4. 池上晴夫: 適度な運動とは何か 講談社 780-I/I-21, 480/B-2/739

8. オフィスアワー等

毎週月曜日の6時限目 (16:30-18:00)

応用スポーツコース（Ⅰ） （柔道エクササイズ、Judo Exercise）

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 1単位

担当教員 橋本 年一

1. 概要

本授業においては、日本柔道の伝統的行動様式を学び、武道の持つ運動文化としての特性を理解させる。併せて、高専柔道（寝技）の基本動作（体さばき）を基に考案した身体運動法を取り上げ、相手を尊重した攻防法から、しなやかな身体の動きを維持していくための方法を学習する。

2. キーワード

日本の（武道）文化、高専柔道の寝技、身体の制御法

3. 到達目標

日本柔道（武道）の歴史や文化を学び、あわせて高専柔道の寝技に内在する技能を習得することを目標とする。

4. 授業計画

- 1)、オリエンテーション
- 2)、日本柔道の歴史と行動様式（礼法、基本の姿勢、組み方）
- 3)、基本動作の学習 その1、その2、その3
- 6)、体さばきの学習 その1、その2、その3
- 9)、応用動作の学習 その1、その2、その3
- 12)、実践への応用 その1、その2
- 15)、実技テスト

5. 評価方法・基準

授業への参加状況、理解度（レポートや学習態度を含む）および習得技能の程度などにより総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。
- ・ボタンやチャックの付いていない体操服、あるいは柔道着を用意すること。
- ・受講者多数の場合、人数制限することもある。

7. 参考書

- 橋本年一著『日本柔道の神髄 寝技』（不味堂出版）789.2/H-4
橋本年一著『日本柔道 寝技指南』（不味堂出版）789.2/H-5
橋本年一著『日本人の魂・日本武道の人間学』第三版

8. オフィスアワー

毎週水曜日 15時～17時

応用スポーツコース（Ⅰ） （フィットネス、Fitness）

全学科 第2、3、4年次

前期 選択 1単位

担当教員 鳥井 正史

1. 概要

本授業においては、体力（フィットネス）向上を目的とした内容を学習する。応用面ではスポーツを積極的に実践する企画運営能力を発展させる。更に、現在および将来の「運動不足」を解消や「運動処方」の基本となる事項にも力点をおいて学習する。

2. キーワード

体力水準
運動能力
ヒトの生理機能
運動処方

3. 到達目標

自己の体力水準を把握し、自分に適した運動プログラムを作成する。

4. 授業計画

1. 現代生活におけるスポーツ活動、身体運動の意義
2. 運動生理学の基本的事項 その1 運動と神経支配や液性の制御
3. その2 筋収縮やエネルギー放出機構など
4. フィットネス（ジョギング）の実践・学習 その1、その2、その3
5. フィットネス（スイミング）の実践・学習 その1、その2
6. フィットネス（ウェイトトレーニング）の実践・学習 その1、その2
6. 実験室における体力の測定実習 その1、その2、その3
7. スポーツ活動の実践のための企画、運営等
8. 運動処方のための企画や実践等

5. 評価方法・基準

「積極的継続性」、理解度（学習態度を含む）および習得技能の程度から総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと、および2、3回演習形式の講義をする。

7. 参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー等

毎週月曜日の6時限目（16：30－18：00）

応用スポーツコース（Ⅱ）（ゴルフ Golf）

全学科 第2・3・4年次

前期（夏季休業期間中集中5日間） 選択 1単位

担当教員 橋本 年一 非常勤講師

1. 概要

本授業は、夏季休業期間中に集中5日間で実施される選択科目である。

学校体育の中で経験する機会の少ないゴルフを教材として取り上げ、ゴルフのルール（マナー）や技術を習得させることにより、学生時代はもちろん社会人となってからも主体性をもってスポーツを生活の中に取り入れ、健康的な生活を送るための知識と実践力を身に付けることをねらいとして行われている。

2. キーワード

ショートアイアン、アプローチ、コースラウンド

3. 到達目標

ゴルフの歴史や文化を学び、ルールやマナーを理解させ、ゴルフに内在する様々な技術を習得することを目標とする。

4. 授業計画

- 1)、基礎知識・基礎技術
- 2)、打撃練習（ショートアイアン、ミドルアイアン、ドライバー）
- 3)、打撃練習（アプローチ、パンカーショット、パター）
- 4)、コースラウンド（ショートコース）
- 5)、〃

5. 評価方法・基準

授業への参加状況、理解度、および習得する技能の程度などにより、総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・学外の施設を利用して実施する関係で、施設利用料は受講者負担となります。
- ・受講者は年度初めの健康診断を受けておくこと
- ・希望者多数の場合、人数を制限することもある。

7. 参考書

1. 橋本年一・鈴木正敏 共著 増補改訂版 新しい体育実技の方法（学術図書出版社）780.7/H-3/2

8. オフィスアワー

毎週水曜日 15時～17時

応用スポーツコース（Ⅱ）

（ウォーキング・エクササイズ Walking Exercise）

全学科 第2・3・4年次

後期（冬季休業期間中集中5日間） 選択 1単位

担当教員 橋本 年一

1. 概要

本授業は、冬季休業期間中に集中5日間で実施される選択科目である。

運動不足が原因となる疾患が話題となっているが、その予防・改善を目的とした有酸素運動としてのウォーキングの実戦を通し、継続的な運動実施が健康にどのような影響を与えるかについて理解を深める。この授業では単に「歩けば健康になる」ということを強調するのみではなく、歩くことから派生する様々な文化的事象をも取り上げ、学生時代はもちろん社会人となってからも継続的な運動実施習慣の形成を意図する。

2. キーワード

有酸素運動、運動不足、生活習慣

3. 到達目標

体力レベルが低い、あるいは技術系のスポーツ種目が不得意な者でも取り組みやすいウォーキングへの興味を高めることを目標とする。

4. 授業の概要と集合場所

（実施場所の順序は変更になる場合があります）

- 1)、八幡
瀬板の森南口（北筑高校側）～散策コース～北口～遊歩道～南口
- 2)、小倉
展望台下広場～森林浴の森（こもれびの小径）～妙見神社～足立公園
- 3)、若松
グリーンパーク東駐車場～頓田貯水池（外回りコース）～響灘緑地入口
- 4)、門司
門司港駅～門司港レトロ～馬関海峡（人道トンネル）～下関・赤間神宮～唐戸市場～関門連絡船～門司港駅
- 5)、戸畑
大学体育館前～明専会館（同窓会本部）～旧松本邸（西日本工業倶楽部）～金比羅池～金比羅山～夜宮公園万葉歌碑

5. 評価方法・基準

授業への参加状況、参加態度、理解度などにより総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・学外で実施する関係で、現地までの交通費は受講者負担となります。
 - ・受講者は年度初めの健康診断を受けておくこと。
 - ・希望者多数の場合、人数を制限することもあります。
 - ・運動に適した服装、運動靴、タオル、帽子、手袋、水筒、リュックなどの準備。
 - ・前日午後5時における、当日の降水確率50%以上の場合中止とする。
- 尚、雨天で実技が実施できない場合は、一月に補講を行います。

7. 教科書・参考書

特になし

8. オフィスアワー

水曜 15時～17時

リレー講義：環境適応論 (Adaptation to environment)

第3・4年次 後期 選択 2単位

担当教員 鳥井 正史 (コーディネーター)

1. 概要

- ・目的：適応とは何か？その概念は各学門分野においてかなり広範にかつ多様に解釈されている。本講義では、生物体と環境との相互作用として生体側にあらわれる代償性の反応としてとらえる。人間を含む生体はさまざまに変化する環境の中にありながら、その重要な生体調節機能をほぼ一定のレベルに維持できる能力を備えている。この生体機能によって、弾力的に環境の変化に対処して生きている。環境の変化に対して生体の独自性を保持して生存を可能にする能力が適応と呼ばれている。ここでは微生物から高等動物、ヒトの取り巻く環境への適応を取りあげる。たとえば、調節系、特に大脳に関連した問題、ヒトの作業能と機械系のそれとの比較・相違からヒトの作業能、dynamic 筋収縮時の生体調節系の諸問題、圧力（低圧）と生体調節系および高温や寒冷の生理的適応などを取り扱う。さらに心理的・運動学的側面あるいは人間の適応を可能とする人工的補助システムからも本題にアプローチをする。

2. キーワード

生活（生存）環境、自律神経機能、馴化・順応、生理的・文化的適応

3. 到達目標

生体の機能ならびにその調節に関して認識を深める。

4. 授業計画

1. 本講義の概要 生体の二大調節系：自律神経と内分泌系（鳥井正史） 10月7日
2. 微生物と環境適応1 （尾川博昭、生命体工学研究科） 10月14日
3. 微生物と環境適応2 （尾川博昭、生命体工学研究科） 10月21日
4. 人間の知能と適応性 （横井博一、生命体工学研究科） 10月28日
5. ヒトの脳活動からみた運動・動作特性（八木康夫、西南女学院大学） 11月4日
6. スポーツ・運動による短時間にみられる適応機能（得居雅人、九州共立大学） 11月11日
7. 低酸素－低圧環境と生体適応（平木場浩二、生命体工学研究科） 11月18日
8. 体温調節と適応に関連する諸問題（濱田臣二、北九州工業高等専門学校） 12月2日
9. 温熱環境－暑熱と寒冷に対する適応（濱田臣二、北九州工業高等専門学校） 12月9日
10. 人工ポンプ作用の特性：ヒトの心・血管系への応用（塚本寛、生命体工学研究科） 12月16日
11. ヒトの適応障害の克服：福祉環境進展への貢献（和田親宗、生命体工学研究科） 1月13日
12. 心理的側面からみた適応：スポーツにおける誤審問題と偶然の輸贏（橋本年一） 1月20日
13. 総括－本講義の評価（鳥井正史） 1月27日
14. 予備 2月3日

5. 評価方法・基準

毎回講義要約レポートを翌週に提出し、期末に課題レポートを課す。これに加えて講義に対する「積極的継続性」（学習態度を含む）および理解度等から総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

外部講師に講義を依頼している関係で、講義順序が変動することがある。

7. 参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー等

毎週月曜日の6時限目（16：30－18：00）

リレーセミナー「環境を考える」

全学科 第2・3・4年次 前期 選択 2単位

担当教員 永井万里子・今井 敦・虹林 慶 (コーディネーター)

1. 概要

環境問題は21世紀における最大の問題の一つである。様々なキャンペーンやメディアでの報道が盛んに行われている一方で、その歴史的経緯や思想的背景、あるいは問題がどれほど多岐に及んでいるかなどについては、必ずしも十分に周知されているとは言いきれない。この授業では幾つかの例を挙げながら、環境問題のそのような部分に光を当て、多角的に考察することを試みる。

第1テーマを虹林、第2テーマを永井、第3テーマを今井が担当。

2. キーワード

表現能力、論理的思考、多文化

3. 到達目標

三つの異なるテーマについて、1) 使用された資料を理解し、2) テーマについて論理的に議論し、3) 資料と議論した内容をふまえて、論旨の通ったレポートを作成することを目標とする。

4. 授業計画

- 1) イントロダクション
- 2) 第1テーマ「環境と文学」（1回目）資料解説、ディスカッションのポイント確認
- 3) 第1テーマ「環境と文学」（2回目）ディスカッション、レポートの構成指導
- 4) 第1テーマ「環境と文学」（3回目）作成したアウトラインの吟味、資料の用い方指導
- 5) 第1テーマ「環境と文学」（4回目）試作レポートの読みあい、修正点の確認
- 6) 第2テーマ「環境と資源」（1回目）資源に関する概説（ワークシート使用）
- 7) 第2テーマ「環境と資源」（2回目）視聴覚資料、講義、ディスカッション
- 8) 第2テーマ「環境と資源」（3回目）個別発表、レポート用のチャート作成
- 9) 第2テーマ「環境と資源」（4回目）アウトライン（レポート）のプレゼンテーション
- 10) 第3テーマ「環境意識と技術批判」テキスト理解（予習にもとづく）
- 11) 第3テーマ「環境意識と技術批判」ディスカッション
- 12) 第3テーマ「環境意識と技術批判」レポート草稿完成
- 13) 第3テーマ「環境意識と技術批判」レポートの合評
- 14) まとめ

5. 評価方法・基準

授業内のディスカッション（プレゼンテーションなども含む）、資料調査、3回のレポートを総合して行う。60点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外の学習等

セミナー形式のため、配布する資料を授業計画に沿って予習することが必須である。また、講義の形式上、人数制限をかけることもある。

* 授業に有益な映像資料を授業時間外にビデオ・オン・デマンドで観ることをお勧めする。リストについては、人間科学系ホームページ（学内みのアクセス）の「リレーセミナー」のページを見ることがある。[\(http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/\)](http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/)

7. 教科書・参考書

第一回目に配布する。以下、参考書（すべて九工大附属図書館蔵）。

第1テーマ：『ウィリアム・ワーズワース詩集』（岩波文庫）

第1テーマ：ウィリアム・モリス、『民衆の芸術』（岩波文庫）

第1テーマ：ジョナサン・ペイト、『ロマン派のエコロジー』（松柏社）

第2テーマ：志賀美英『鉱物資源論』（九州大学出版会、2003年）

第2テーマ：内堀基光他編『資源人類学』（放送大学教材）2007年（図書）

第3テーマ：フリードリヒ・ゲオルク・ユンガー著『技術の完成』（かいろす）

第3テーマ：ハンス・パーシェ著『アフリカ人ルカンガ・ムカラのドイツ奥地への調査旅行』（鳥影社）

第3テーマ：ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』

8. オフィスアワー等

相談窓口はコーディネーターとする。オフィスアワーの詳細は第一回目に知らせる。

Ⅱ．教職に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

全学科 1年 後期(集中講義) 2単位

担当教員 藤井 美保

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、教師の役割認知過程をたどることによって、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者 同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション ―揺れ動く現代の教師役割―
- 2回 教師を取り巻く現実
- 3回 教師の役割 ―学習指導―
- 4回 教師の役割 ―生徒指導―
- 5回 教師役割の歴史の変遷
- 6回 専門職としての教師 ―教職は聖職か?―
- 7回 専門職としての教師 ―労働者としての教師―
- 8回 専門職としての教師 ―専門職とは何か―
- 9回 教師の役割認知過程 ―教師役割の形成―
- 10回 教師の役割認知過程 ―役割相手としての生徒・保護者・同僚・地域住民―
- 11回 教職の特性
- 12回 教師に求められる資質・能力
- 13回 教師役割の国際比較
- 14回 全体のまとめ ―理想の教師像とは―
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

平常点(リアクション・ペーパー等、40点)および筆記試験の点数(60点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7. 教科書・参考文献

●教科書は指定しない(必要に応じて資料を配付する)

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

教育原理 月曜1限

(Principle of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観を深め、志向する教育制度や教育実践を表現できるようにする。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「教育」及びその近接概念について
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 教授法の変遷に見る教育観
- 4回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5回 教育と子育て
- 6回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8回 初等教育の現状と課題
- 9回 中等教育の現状と課題
- 10回 高等教育の現状と課題
- 11回 家族・学校・地域の連携
- 12回 不登校といじめ問題
- 13回 児童虐待と少年犯罪
- 14回 現代教育の再構築―情報化社会と生涯学習―
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

- 小レポート 30%
 期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書、参考文献

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

全学科 1年・2年 前期 選択必修 2単位

担当教員 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識(発達、学習、人格と適応、障害児教育等)の習得。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 ころ(脳)の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

E-mail アドレス: gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 月曜 1 限 (Sociology of Education, the 1st period, Monday)

全学科 1 年・2 年 後期 選択必修 2 単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の 3 つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 2 回 文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
- 3 回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 4 回 ジェンダーと教育
- 5 回 メディアと教育
- 6 回 現代の子ども文化
- 7 回 現代の若者文化
- 8 回 少年非行の社会学
- 9 回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10 回 学力とカリキュラムの社会学
- 11 回 学校教育と職業
- 12 回 教育政策の変遷と現在
- 13 回 学校経営の現代的課題（1）
- 14 回 学校経営の現代的課題（2）
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

成績評価

小レポート 30%

期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考文献

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

刈谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

全学科 2 年 前期（集中講義） 1 単位

担当教員 堺 正之

1. 概要

今日のエ育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程（カリキュラム） 教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。

4. 授業計画

- 1・2 回 はじめに－学校教育をとりまく状況－
以下 教育課程総論
- 3・4 回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6 回 教育課程の変遷
- 7・8 回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10 回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12 回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14 回 教科外の諸領域（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15 回 小まとめと質疑

5. 評価方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程』有斐閣 2005 年 375/T-5

参考書

- 1) 山崎英則・片上宗二 編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編－』375.1

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

全学科 2年 前期（集中講義） 1単位

担当教員 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動（ホームルーム活動） 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ①日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ②中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」について、生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）学級活動－中学校－
- 7・8回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 最終試験

5. 評価方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書

相原次男、新富康史編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴェ書房 375/M-16/8

8. オフィスアワー等

教育方法 Educational Method

全学科 3年 前期（集中講義） 2単位

担当教員 高田 清

1. 概要

●授業の目的

学校教育において、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成していく原理としての教育課程論を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の原理を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

学習者に伝えようとする（あるいはあるいは学習者が学ぼうとする）知識や技術等を、学習者の発達や興味・関心にどう適合させ、いかに授業を展開させるか、という問題について考えるのが教育方法（学）の課題である。したがって、この学問領域では「どのような教育内容を構成するか」、「それをどのような順序で、どんな材料を使って教えるか」、そしてさらに「教えた（学習した）結果をどう評価するか」という問いを含む。

2. キーワード

学習指導要領 授業記録 学力 評価

3. 到達目標

学校教育の構造と今日的教育課題を理解し、教育実践における指導と方法技術の基本を理解する。

4. 授業計画

(1) 教育と教育実践の方法技術

- 1回 現代の子どもと教育の課題
- 2回 教育実践とは何か
- 3回 教育主体の原則と発達主体の原則
- 4回 指導とは何か
- 5回 教育実践における方法技術について
- 6回 学校教育の構造と教育作用の構造

(2) 教育課程の編成の原理

- 7回 教育課程とは何か
- 8回 学習の指導と生活の指導
- 9回 教育課程編成の原理
- 10回 教科つくりと教材解釈

(3) 特別活動の指導原理

- 11回 今日の子どもと特別活動の意義
- 12回 特別活動の歴史
- 13回 特別活動の指導原則

(4) 情報機器の利用

- 14回 教育実践と情報機器
- 15回 情報機器の利用

5. 評価方法・基準

レポートの結果（70％）と出席状況（30％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①基本的には講義だが、積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

●参考書

高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8. オフィスアワー等

生徒指導 Student Guidance

全学科 2年 後期(集中講義) 2単位

担当教員 大迫 秀樹

1. 概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。

学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。

具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

2. キーワード

人格の発達 心理査定 いじめ 非行 不登校 進路指導 教育相談 カウンセリング

3. 到達目標

教員を志願するものが、人格理解のための基礎理論を学ぶとともに、カウンセリングの考え方についても学び、教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基盤を習得する。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習(カウンセリング技法など)も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

- 1回：生徒指導とは何か
- 2回：生徒指導の領域
- 3回：生徒指導の方法
- 4回：生徒理解 ① 人格の発達
- 5回：生徒理解 ② 発達の問題
- 6回：生徒理解 ③ 心理査定
- 7回：問題行動 ① いじめ
- 8回：問題行動 ② 非行
- 9回：問題行動 ③ 不登校
- 10回：問題行動 ④ その他
- 11回：進路指導とは何か
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：カウンセリングの考え方
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ

5. 評価方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書、参考文献

●教科書は使わないが、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

8. オフィスアワー

なし(非常勤講師のため)

教育相談 Educational Counseling

全学科 2年 後期 2単位

担当教員 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性が高くなる高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談(心理援助・カウンセリング)の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

4. 授業計画

- 1回：はじめに(教育相談の意義)
- 2回：発達とは
- 3回：発達段階
- 4回：思春期・青年期の発達①
- 5回：思春期・青年期の発達②
- 6回：思春期・青年期の発達③
- 7回：思春期・青年期の問題行動・病理
- 8回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解(その1)
- 9回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解(その2)
- 10回：教育相談の現状と課題
- 11回：教育相談の理論と方法
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法(その1)
- 13回：教育相談・カウンセリングの理論と方法(その2)
- 14回：講義の復習・演習
- 15回：試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書、参考文献

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学(東京大学出版会) 371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学(ミネルヴァ書房) 146/S-9

8. オフィスアワー等

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

総合演習 金曜1限
(General Seminar, the 1st period, Friday)

全学科 4年 前期 教職科目 2単位

担当教員 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

変動する現代社会と教育のかかわり、現代社会において求められる教師の力量などについて、討論やプレゼンテーションなどを通じて理解を深められるようにする。また、教科指導はもとより、「総合的な学習の時間」などの模擬授業の実践を通して、教職の意義や目的、方法、課題などについて意識を高められるようにする。これら全体を通じて、表現能力やコミュニケーション能力を高めることも、本演習の大きな目標の一つである。

●授業の位置付け

現代社会では、情報化やグローバル化、少子高齢化など、大規模な社会変動が不断に進行している。また、環境問題など社会全体で取り組むべき喫緊の課題も山積している。本演習では、こうした現代社会の諸問題に対処しうる教育の役割、教師に求められる力量などについて、討論や発表などを通して理解を深めていく。また、それらを踏まえたうえで、「総合的な学習の時間」などの模擬授業を行い、現代社会における教職の意義や役割についての考察を深める。

2. キーワード

少子高齢化 核家族化 都市化 情報化 グローバル化 環境問題 教育改革 「総合的な学習の時間」

3. 到達目標

- ①現代の社会変動と教育とのかかわりについて理解を深める。
- ②現代社会における教育や教師の役割について理解を深める。
- ③教育的なコミュニケーション能力、表現能力の向上を目指す。

4. 授業計画

授業は演習形式で行う。各回当番の学生が発表や模擬授業を行い、その後全員で討議する。

- 1回 少子高齢社会と教育の課題
- 2回 家族の変容と教育の課題
- 3回 都市化と教育
- 4回 消費・情報社会における教育
- 5回 グローバル化と教育
- 6回 環境問題と環境教育
- 7回 教育改革の動向（1）
- 8回 教育改革の動向（2）
- 9回 教師に求められる力量（1）
- 10回 教師に求められる力量（2）
- 11回 教科指導実践（1）
- 12回 教科指導実践（2）
- 13回 「総合的な学習の時間」の実践（1）
- 14回 「総合的な学習の時間」の実践（2）
- 15回 まとめ

5. 評価方法・基準

発表内容、模擬授業の内容、演習に対する態度 50%
最終レポート 50%

評価に当たっては、論理的に論が展開できているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- 授業中に指示する学習指導要領、審議会の答申、新聞・雑誌記事、学術論文、授業記録などを読んでおくこと。
- その他、授業中に指示する参考文献を読んでおくこと。

7. 教科書・参考文献

- 教科書
特に指定しない
- 参考文献
授業時間内に指示する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスまで。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

人間科学科目（留学生）

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。日本事情C、日本事情Dは1年次から3年次の学生を対象に金曜日に開講され、人文社会系科目に振り替えることができる。留学生はその他、人文社会系科目として1科目2単位（合計10単位）が必修である。履修案内や時間割を参照して、履修を希望する科目を選び、最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

全学科 第1年次 前期 選択 1単位

担当教員 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力をきちんと定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	試験	

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

8. オフィスアワー等

日本語 A I Japanese I

全学科 第1年次 前期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の現代社会に関して必要な情報を整理し、そこから日本で自ら発信する技術を養成することを狙いとする。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「日本の現代社会」「読解」「文法表現」「討論」

3. 到達目標

- 社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- 読解力をつける
- 考えたこと、感じたことを日本語で的確に表現する力をつける。
- 積極的に他人の意見を聴き、自分の考えを組み立てて議論を進める力をつける。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 余暇
- 第3回～第4回 健康産業
- 第5回～第6回 見合いは親同士で
- 第7回～第8回 性別役割分担
- 第9回～第10回 孫離れできぬ祖父母
- 第11回～第12回 ホテル化した家庭
- 第13回～第14回 義理を欠くことの大切さ
- 第15回 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20％）、小テスト・宿題（20％）、学期末試験（60％）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

中上級レベルの学習者を対象とする。
課題を必ず提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

留学生のための時代を読み解く上級日本語（スリーエーネットワーク）810.7/M-41

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限

日本語 A II Japanese II

全学科 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力をきちんと定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- ①読む力、聞く力を向上させる。
- ②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- ③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
- ④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 第8課 カラー柔道着
- 第3回～第4回 第9課 料理技能の検定
- 第5回～第6回 第10課 発明王
- 第7回～第8回 第11課 花の洋風化
- 第9回～第10回 第12課 さいせん回数券
- 第11回～第13回 KIT版科学読み物
- 第14回 研究室見学
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20％）、課題（20％）、学期末試験（60％）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。
毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
- 2) アブドゥハン恭子・石東万里子：KIT 版科学読み物 2002（九州工業大学）

8. オフィスアワー等

日本語 A II Japanese II

全学科 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

- ①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できるようになる。
- ②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができるようになる。

4. 授業内容

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。

適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし

7. 教科書・参考書

なし

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限

日本語 B I Japanese B I

全学科 第1年次 前期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- 科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- 聞き取った内容を的確に把握する。
- 科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 説明文の表現練習
- 第2回 テーマ：メディア革命
- 第3回 テーマ：新エネルギー開発
- 第4回 テーマ：再生木材
- 第5回 テーマ：最先端ロボット
- 第6回 テーマ：エコタウン
- 第7回 テーマ：有毒アオコ
- 第8回 テーマ：脳科学と教育
- 第9回 テーマ：メタンハイドレート
- 第10回 テーマ：地球温暖化 島が沈む
- 第11回 テーマ：小水力発電
- 第12回 研究室見学
- 第13回 地球温暖化についてまとめ
- 第14回 テーマ：バイオメトリクス認証
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー等

木曜日 4 限

日本語 B II Japanese B II

全学科 第1年次 後期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

●科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

●聞き取った内容を的確に把握する。

●科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

第1回 テーマ：折り紙工学

第2回 テーマ：空飛ぶ無人IT基地

第3回 テーマ：光化学スモッグの再発

第4回 テーマ：ICタグで暮らしが変わる

第5回 テーマ：磁石研究とエコカー

第6回 テーマ：東京大地震

第7回 テーマ：ペットボトルリサイクル

第8回 テーマ：脳の疲れを癒せ

第9回 テーマ：超薄型テレビ開発

第10回 テーマ：生物をまねる

第11回 テーマ：生ごみを生かせるか

第12回 研究室見学

第13回 テーマ：スペースデブリ

第14回 研究室見学

第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー等

木曜日 4限

日本語 C I Japanese C I

全学科 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できるようになる。

②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができるようになる。

4. 授業内容

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。

適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

なし

8. オフィスアワー等

木曜日 4限

日本語 C II Japanese C II

全学科 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」

3. 到達目標

●自分の日本語能力を客観的に評価する

●不十分な技能を磨くための学習方法を身につける

●自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける

●まとめとして説得力のあるプレゼンテーションを行う

4. 授業内容

第1回 イントロダクション：自己評価とは

第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量

第3回 前回のフィードバック、練習

第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ

第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習

第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力

第7回 前回のフィードバック、練習

第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力

第9回 前回のフィードバック、練習

第10回 自分の力を知る：表現力・説得力

第11回 前回のフィードバック、練習

第12回 プレゼンテーションに向けて（1）構成

第13回 プレゼンテーションに向けて（2）説得力

第14回 プレゼンテーションに向けて（3）練習

第15回 プレゼンテーション

5. 評価方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

特になし

日本事情 A Japanese Culture and Society A

全学科 第1年次 前期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

①大学生にとって知っていることが望ましいと思われる日本社会に関する基本的な知識を獲得する

②討議に積極的に参加して考えを深める

③日本の社会、文化についてまとまりのある文章を書く

4. 授業計画

第1回 アイスブレイキング：国のイメージ

第2回 学校生活

第3回 英語教育

第4回 教育問題：いじめ

第5回 しつけと人間関係

第6回 年行事

第7回 若者文化

第8回 日本の物価

第9回 結婚と女性

第10回 宗教

第11回 日本人はなぜよく働くか

第12回 社会保障制度

第13回 自殺

第14回 日本の未来

5. 評価方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

下の参考書等を参照して理解を深めること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

●参考書

1) 日鉄ヒューマンデベロップメント・日本外国語専門学校：日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情 (The Japan Times) 302.1/N-16

2) 日鉄ヒューマンデベロップメント：日本 - その姿と心 - (学生社) 302.1/S-10

3) 山本茂：留学生のための日本事情 (大学教育出版) 302.1/Y-5

4) 長谷川勝行：日本人の秘密 (ヤック企画) 817.7/H-3

8. オフィスアワー等

月曜日3限

日本事情B Japanese Culture and Society B

全学科 第1年次 後期 選択 2単位

担当教員 アブドゥハン恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について意見を広げ、討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

その時々々の新聞から興味のある記事を自ら選んで紹介し、意見を交換する。現代の日本社会に対する関心と理解を深める。

2. キーワード

「新聞記事」「日本社会」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々々の新聞から興味のある記事を取り上げて、要旨をまとめ、意見を書いて紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。提起された問題について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価方法・基準

発表（50%）及び毎回のノート（30%）授業への参加度（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で日本の新聞記事も読んでみる習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー等

月曜日3限

日本事情C Japanese Culture and Society C

全学科 第2年次 前学期 選択 2単位

担当教員 山路 奈保子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。

また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける

4. 授業計画

第1回 データでみる日本

第2回 日本の地理・気候

第3回 憲法

第4回 政治制度

第5回 選挙と世論

第6回 戦後経済史

第7回 消費者をめぐる問題

第8回 労働問題と社会保障

第9回 宗教

第10回 日本の歴史（1）

第11回 日本の歴史（2）

第12回 現代日本社会の諸問題

第13回 北九州の地理と歴史

第14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50%）、発表（20%）、授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

特に指定しない

日本事情D Japanese Culture and Society D

全学科 第2年次 後期 選択 2単位

担当教員 山路 奈保子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 人間関係を調節する表現についての概論 |
| 第2－4回 | さまざまな表現と使い方 |
| 第5－7回 | 頼むとき・頼まれたとき |
| 第8－10回 | 苦情を言うとき・言われたとき |
| 第11回 | 意見を述べる |
| 第12回 | 感謝・謝罪 |
| 第13回 | ほめる・ほめられる |
| 第14回 | まとめと討論 |

5. 評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70％）と授業への参加度（30％）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

九州工業大学

郵便番号 804-8550

北九州市戸畑区仙水町 1 番 1 号

電話 北九州 (093) 884 - 3088